山梨県韮崎市

堂地遺跡 II

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1993

韮崎市教育委員会
峡北土地改良事務所

山梨県韮崎市

堂地遺跡 II

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1993

韮崎市教育委員会
峡北土地改良事務所

序　　文

韮崎市では、近年県営圃場整備事業等の大規模開発にともない、数多くの遺跡が発掘調査され、貴重な文化財が発見されています。この度発刊された本報告書は、そのような貴重な発見が相次ぐ大規模開発の一端として平成4年度県営圃場事業に伴い発掘調査された堂地遺跡の報告であります。

堂地遺跡からは縄文時代の遺物や、平安時代・中世のものが発見されました。遺跡から出土した遺物は当時の生活用品である土器・石器が主体となっており、貴重な資料を得ることができました。これらの資料は文化遺産として、永く後世に伝えて行かなければならないものです。報告書はそれらの文化財を記録にとどめたものであり、本書が我々の先人の生活と歴史をときあかすための手助けになればと願っております。

末筆ですが、遺跡の発掘調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成5年3月25日

韮崎市教育委員会

教育長　功刀幸丸

例　　言

1　本書は、県営圃場整備事業に伴う堂地遺跡の発掘調査報告書である。なお、平成３年度に行った堂地遺跡の調査報告書がすでに「堂地遺跡」として刊行されているので、本書は「堂地遺跡Ⅱ」と題した。

2　発掘調査は、峡北土地改良事務所負担金、文化庁・山梨県の補助金を受け、韮崎市教育委員会が実施した。

3　本報告書の作成並びに整理作業は、韮崎市教育委員会社会教育課が行った。

4　凡　　例

①　遺構の番号は発掘調査現場において付けたものである。

②　縮尺は各挿図ごとに示した。

③　挿図断面図の は石をあらわす。

④　挿図中の破線は推定線である。

⑤　写真図版中遺物に付けられた番号は、実測図の番号と対応する。

5　発掘調査及び報告書作成にあたり、多くの方々から御指導・御協力をいただいた。一々御芳名を上げることは割愛させていただくが、厚く御礼を申し上げる次第である。

6　発掘調査・整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調　査　組　織

1　調査主体　　韮崎市教育委員会

2　調査担当　　山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）

3　調査参加者

深沢真知子・石原ひろみ・小野初美・有賀京子・三井福江・清水由美子・青山みち枝・石原復治・石原かよ・岡田順子・植松とみ子・内藤治男・秋山なを子・佐藤民雄・望月高・伊東すみ子・五味ゆき子・戸島まき代

4　事 務 局　　韮崎市教育委員会社会教育課

教育長　功刀幸丸、課長　福田国夫、課長補佐　長野栄太、係長　深沢義文、雨宮智子・筒井清重

目　　次

序　　文
例　　言
目　　次
挿 図 目 次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯と概要 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 1

1　遺跡の立地
2　周辺の遺跡

Ⅲ　遺跡の地相概観 …… 2

Ⅳ　調査の方法 …… 2

Ⅴ　遺　　構 …… 6

Ⅵ　遺　　物 …… 12

Ⅶ　ま と め …… 28

写 真 図 版

挿　図　目　次

第１図　堂地遺跡①と周辺遺跡 …… 3
第２図　堂地遺跡位置図 …… 4
第３図　堂地遺跡全体図 …… 5
第４図　１号埋甕平・断面図 …… 6
第５図　１・２・３・４・５号土坑平・断面図 …… 6
第６図　土坑平・断面図 …… 7
第７図　９号土坑平・断面図、攪乱土層断面図 …… 8
第８図　７・８・10・11・12・13・14・15号土坑平・断面図 …… 9
第９図　16・17・18・19・20・21・22・23号土坑平・断面図 …… 10
第10図　１号地下式土壙平・断面図 …… 11
第11図　１号埋甕 …… 15
第12図　１号土坑出土遺物 …… 15
第13図　２号土坑出土遺物 …… 15
第14図　４号土坑出土遺物 …… 16
第15図　５号土坑出土遺物 …… 17
第16図　６号土坑出土遺物 …… 17
第17図　８号土坑出土遺物 …… 18
第18図　９号土坑出土遺物 …… 18
第19図　11号土坑出土遺物 …… 19
第20図　１号地下式土壙出土遺物 …… 19
第21図　遺構外出土遺物 …… 24
第22図　遺構外出土遺物 …… 25
第23図　遺構外出土遺物 …… 26
第24図　遺構外出土遺物 …… 27

写 真 図 版 目 次

図版１　遺跡遠景、遺構確認作業、発掘風景

図版２　１号埋甕、１号埋甕断面、１・５号土坑

図版３　１号埋甕、２・３・４号土坑、６号土坑土層断面、６号土坑

図版４　攪乱土層断面（北側）・（南側）、９号土坑

図版５　８号土坑、13号土坑、現場風景

図版６　８・10・11・12・13・14・15号土坑、14・15号土坑、22・23号土坑

図版７　発掘風景、測量風景

図版８　16～23号土坑、１号地下式土壙、１号地下式土壙、遺跡近景

図版９　整理作業、１号埋甕、１号土坑出土遺物、２号土坑出土遺物

図版10　４号土坑出土遺物、５号土坑出土遺物、６号土坑出土遺物

図版11　８号土坑出土遺物、９号土坑出土遺物、11号土坑出土遺物、１号地下式土壙出土遺物

図版12　遺構外出土遺物、遺構外出土石器

Ⅰ　調査に至る経緯と概要

平成４年度県営圃場整備事業実施にともない、本市教育委員会では韮崎市圃場整備室から依頼を受け、事業予定地区を平成３年度に踏査及び試掘を行い、遺跡の存在を確認した。その結果をもとに、峡北土地改良事務所・山梨県教育庁学術文化課・市教育委員会で協議を行い、堂地遺跡について、圃場整備事業に先立って面積約280㎡を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

発掘調査は、平成４年11月初旬より開始し、約１カ月間行った。引き続き、遺物等の整理作業を行い、報告書作成までの作業が完了したのは、平成５年３月であった。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺跡の立地

堂地遺跡は、山梨県韮崎市円野町上円井字蕪田地内に所在した。堂地遺跡は昭和46年度に分布調査された時に発見され台帳に載った遺跡であり、平成３年度にはやはり県営圃場整備事業により北端部分が発掘調査された。今回の調査区域は遺跡中央西側にあたる。

韮崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的にほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。

韮崎市の西部は、南アルプスの連峰が連なり、その前衛に段階状に山々が屹立している。これらの山々からは大小の渓流が流れ出しそれぞれ扇状地をつくりだしている。扇状地の末端は南東流する釜無川によって侵食され急崖となり河岸段丘を形成している。段丘上は山麓の台地と緩傾斜の平坦面に分かれ、台地上は駿信往還が通る交通の要路となっており、中世には辺境武士団武川衆の拠点でもあった。堂地遺跡はこのような釜無川右岸河岸段丘の標高約478ｍの水田・畑下に発見された。

2　周辺の遺跡

番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
①	堂　地　遺　跡	縄文・古墳・平安・中世	
②	北　堂　地　遺　跡	縄文・平安・中世・近世	平成２年度 韮崎市教育委員会調査
③	上　本　田　遺　跡	縄文・奈良・平安	平成３年度 韮崎市教育委員会調査
④	中　本　田　遺　跡	縄文	昭和61年度 韮崎市教育委員会調査

番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
⑤	中　道　遺　跡	縄文・平安	昭和60年度 韮崎市教育委員会調査
⑥	下木戸遺跡	平安	
⑦	伊藤窪第2遺跡	縄文・古墳・中世	平成2年度 韮崎市遺跡調査会調査
⑧	宿　尻　遺　跡	縄文	平成3年度 山梨県埋蔵文化財センター調査
⑨	能　見　城　跡	中世城郭	
⑩	新　府　城　跡	中世城郭	国指定史跡
⑪	大豆生田遺跡	縄文・弥生・平安	昭和49年度 山梨県教育委員会調査
⑫	大小久保遺跡	平安	昭和57年度 須玉町教育委員会調査
⑬	湯　沢　遺　跡	平安	昭和58年度 高根町教育委員会調査
⑭	宮間田遺跡	平安	昭和60・61年度 武川村教育委員会調査
⑮	大豆生田砦跡	中世	
⑯	宇波円井遺跡	縄文	
⑰	向　原　遺　跡	縄文・弥生・平安	昭和59年度 武川村教育委員会調査
⑱	長坂上条遺跡	縄文	大山柏・他 「山梨県日野春村長坂上条発掘調査報告」 『史前学雑誌』13－3　1941年

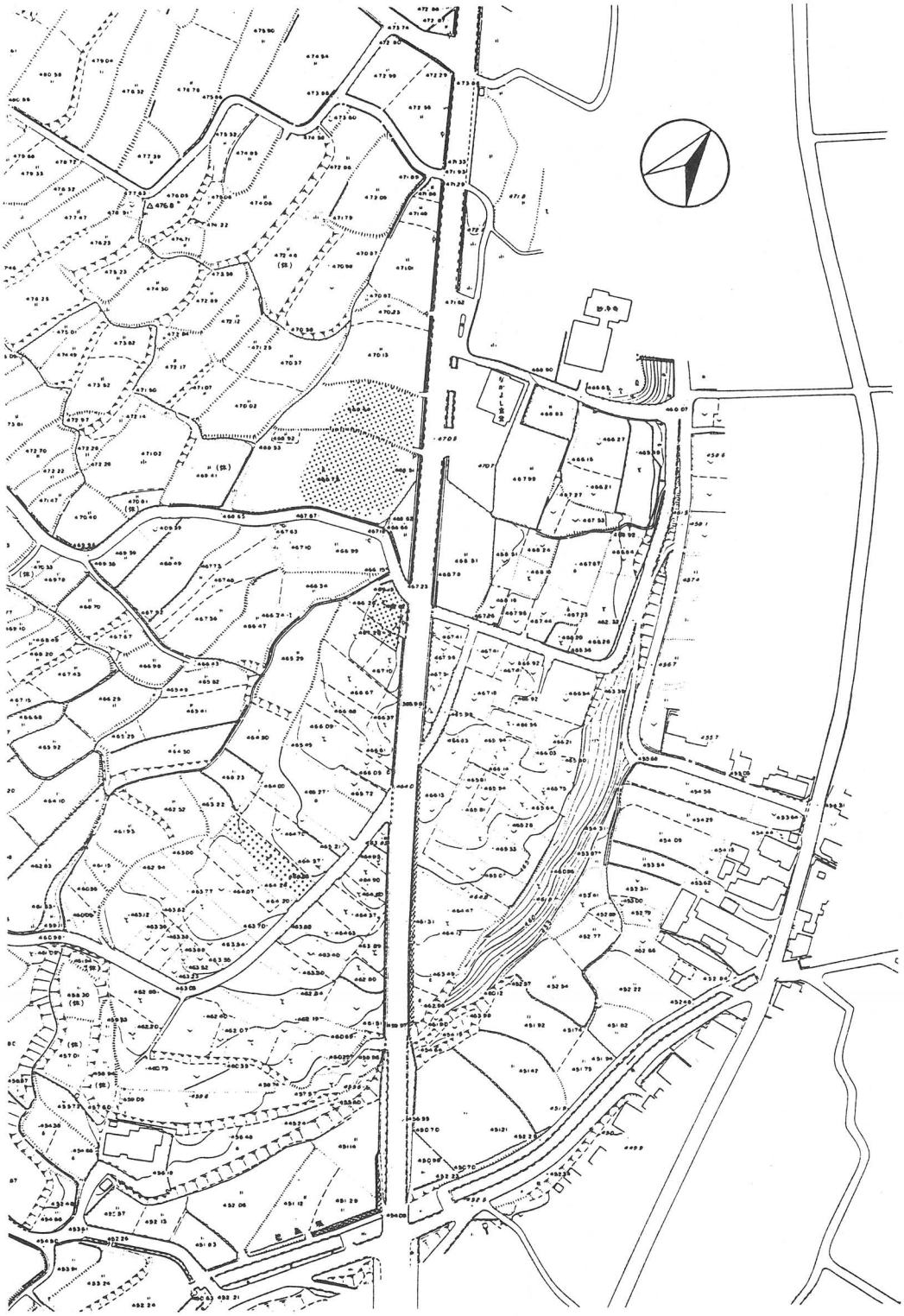
Ⅲ　遺跡の地相概観

堂地遺跡は、県営圃場整備事業に伴い平成3年度に発掘調査された堂地遺跡から南へ100ｍ程離れた所に位置する。昭和46年度の分布調査によると北から南へ流れる小沢と段丘崖に挟まれた舌状台地の畑が遺跡であり、今回はその中央西側の畑一枚分が調査区域であった。国道を挟んだ崖下の旧国道沿いに上円井の街村がある。まわりは水田や畑となっている。調査区域は基本的に耕作土下は黄褐色土のローム層となる。

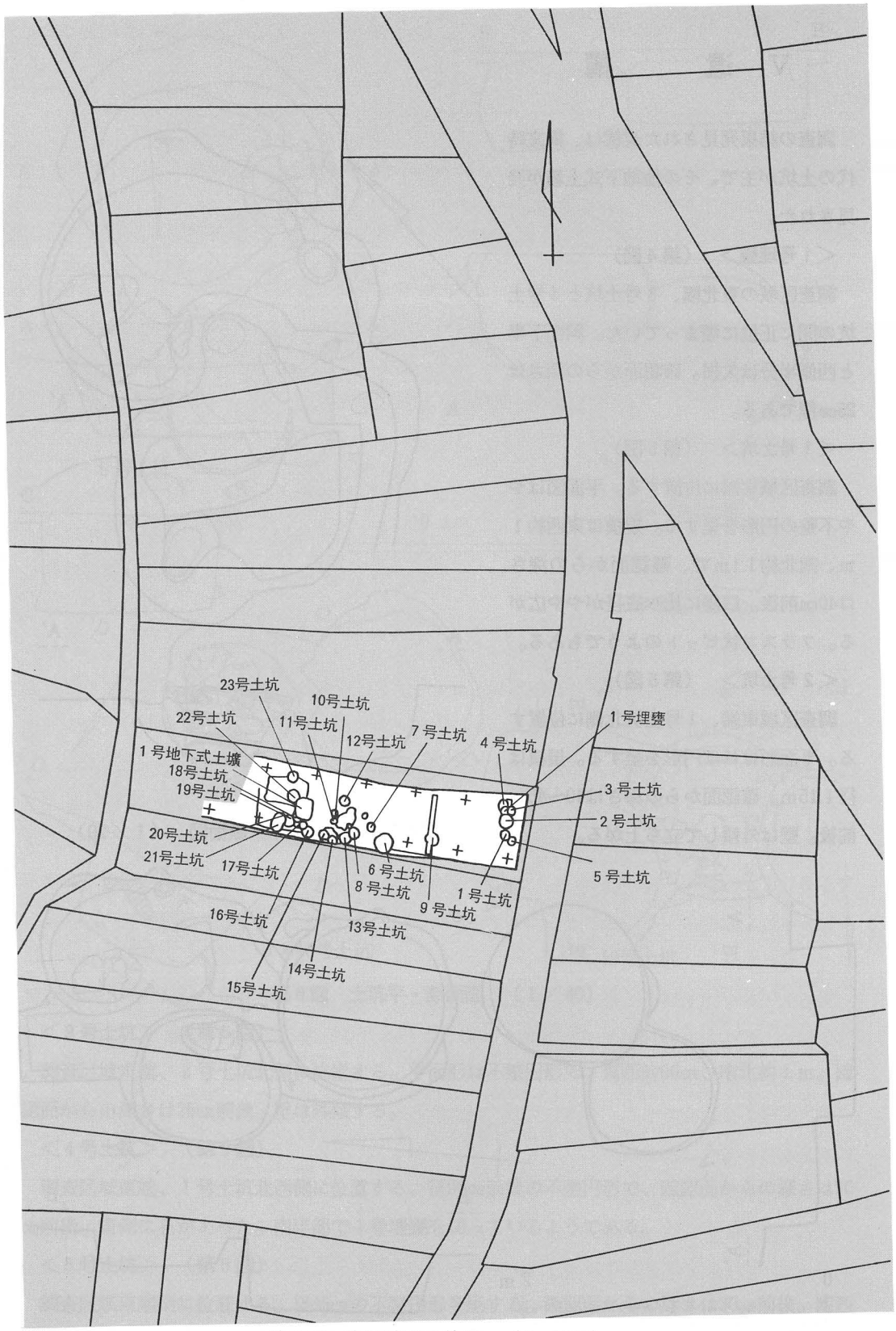
Ⅳ　調査の方法

地形を考慮し任意に5ｍ方眼を設定し、調査を行った。耕作土・表土を排除した後、鋤簾等により精査を行い、遺構確認の後掘り下げを行ったが、調査区域内は攪乱が著しく随時サブトレンチを設定して遺構の確認につとめ、調査を実施した。

第１図　堂地遺跡①と周辺遺跡　（１：50,000）



第２図　堂地遺跡位置図　（１：2,500）



第３図　堂地遺跡全体図　（１／600）

V 遺　　構

調査の結果発見された遺構は、縄文時代の土坑が主で、その他地下式土壙が発見された。

＜1号埋甕＞　（第4図）

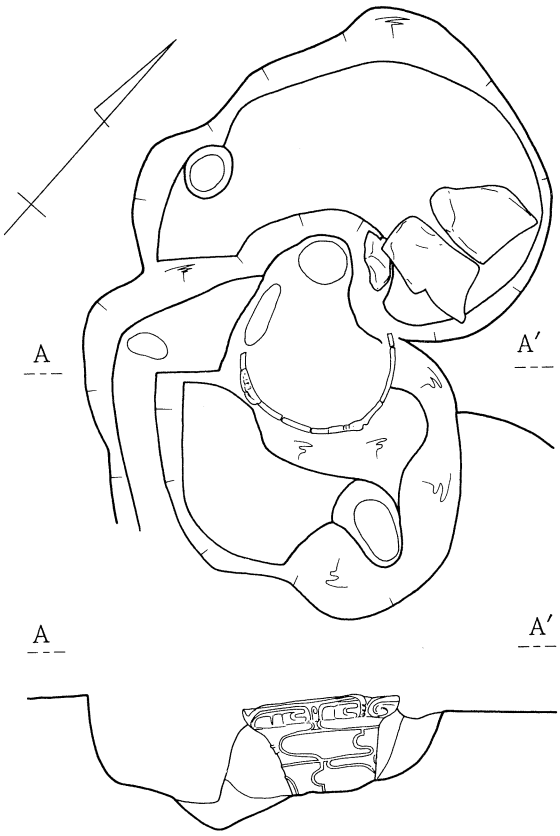
調査区域の東北隅、3号土坑と4号土坑の間に正位に埋まっていた。胴部下半と西側半分は欠損。確認面からの深さは25cm程である。

＜1号土坑＞　（第5図）

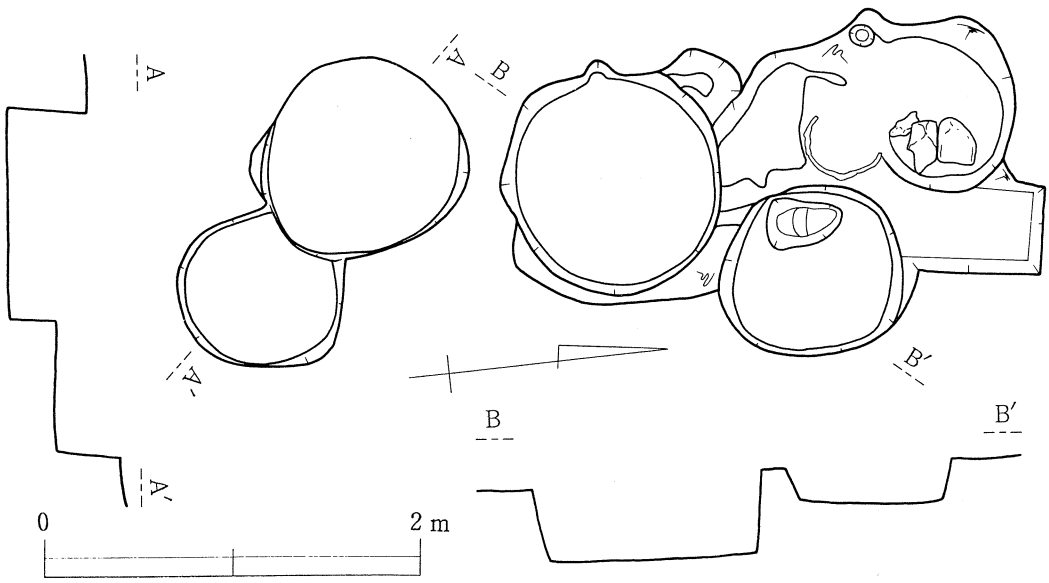
調査区域東端に位置する。平面図はやや不整の円形を呈する。規模は東西約1m、南北約1.1mで、確認面からの深さは40cm前後。口径に比べ底径がやや広がる。フラスコ状ピットのようでもある。

＜2号土坑＞　（第5図）

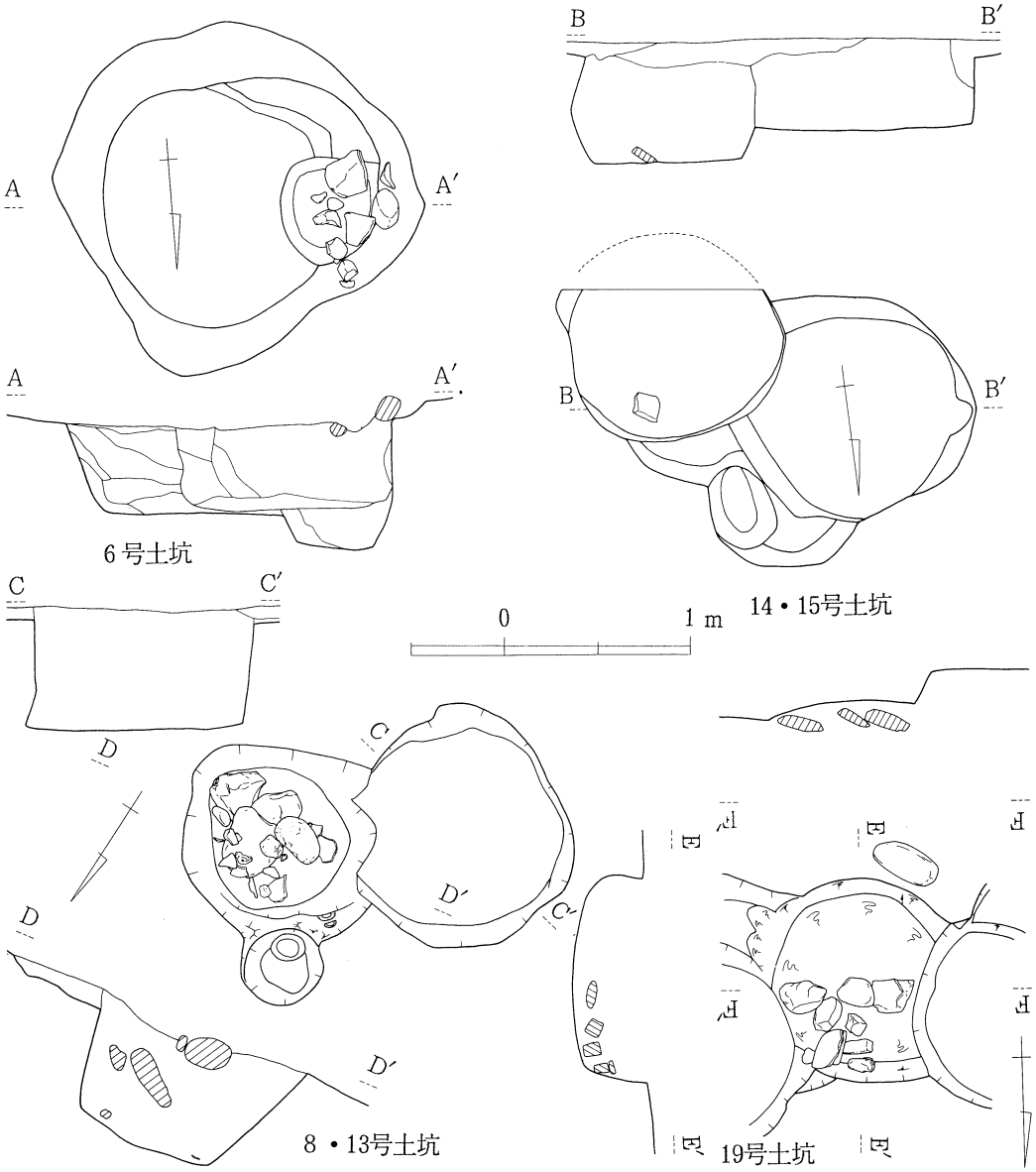
調査区域東端、1号土坑北側に位置する。平面形はほぼ円形を呈する。規模は径1.15m。確認面からの深さは40～45cm前後。壁は外傾して立ち上がる。



第4図　1号埋甕平・断面図　（1／20）



第5図　1・2・3・4・5号土坑平・断面図　（1／40）



第6図　土坑平・断面図　（1／40）

＜3号土坑＞　（第5図）

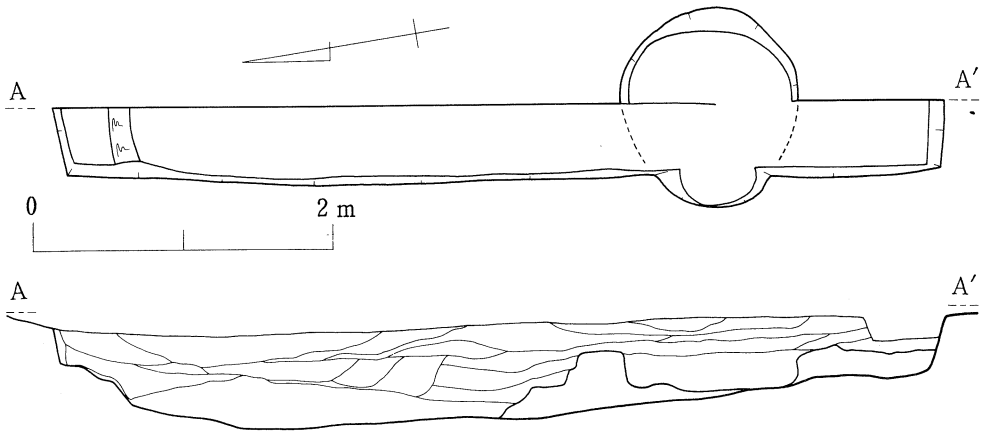
調査区域東端、2号土坑北側に位置する。平面形は不整円形で、東西約90cm、南北約1m。確認面からの深さは25cm前後。壁は外傾する。

＜4号土坑＞　（第5図）

調査区域東端、1号土坑北西側に位置する。径90cm前後の不整円形で、確認面からの深さは20cm前後。東側に石があった。南半部で1号埋甕を切っているようである。

＜5号土坑＞　（第5図）

調査区域東端南に位置する。径85cmの不整円形を呈する。確認面からの深さは30cm前後。南西側は1号土坑と重複している。



第７図　９号土坑平・断面図、撹乱土層断面図　（１／50）

＜６号土坑＞　（第６図）

調査区域中央南東端に位置する。本遺構は当初ひとつの穴と思って掘り下げを行ったが、土層観察の結果３つの穴が重複していることが判明した。最初に方形の穴があり、次いで西側に深い穴が掘られ、最後に円形の土坑となっている。最終段階の土坑の直径は約1.15ｍで、深さは約45㎝となっている。

＜７号土坑＞　（第８図）

調査区域中央東側に位置する。平面形は円形を呈する。規模は直径約１ｍ。確認面からの深さは35㎝前後。北側に深さ50㎝程の75×55㎝の楕円形を呈するピットがある。この７号土坑の辺りから東側にかけては、撹乱されており重機の爪痕が見られた。

＜８号土坑＞　（第６・８図）

調査区域中央南側に位置する。平面形は不整の円形を呈し、東西約1.1ｍ、南北約１ｍの規模である。確認面からの深さは、60～70㎝。壁は外傾して立ち上がる。内部には大きな石と土器片が見られた。北側に深さ30㎝、径40㎝のピットがあり、西南側は13号土坑と重複している。

＜９号土坑＞　（第７図）

調査区域東半部南側に位置する。調査区域内土層観察のために設定し掘り下げた溝の断面で確認された。直径1.2ｍ前後のほぼ円形の土坑で、ローム層面からの深さは約25㎝。

＜10号土坑＞　（第８図）

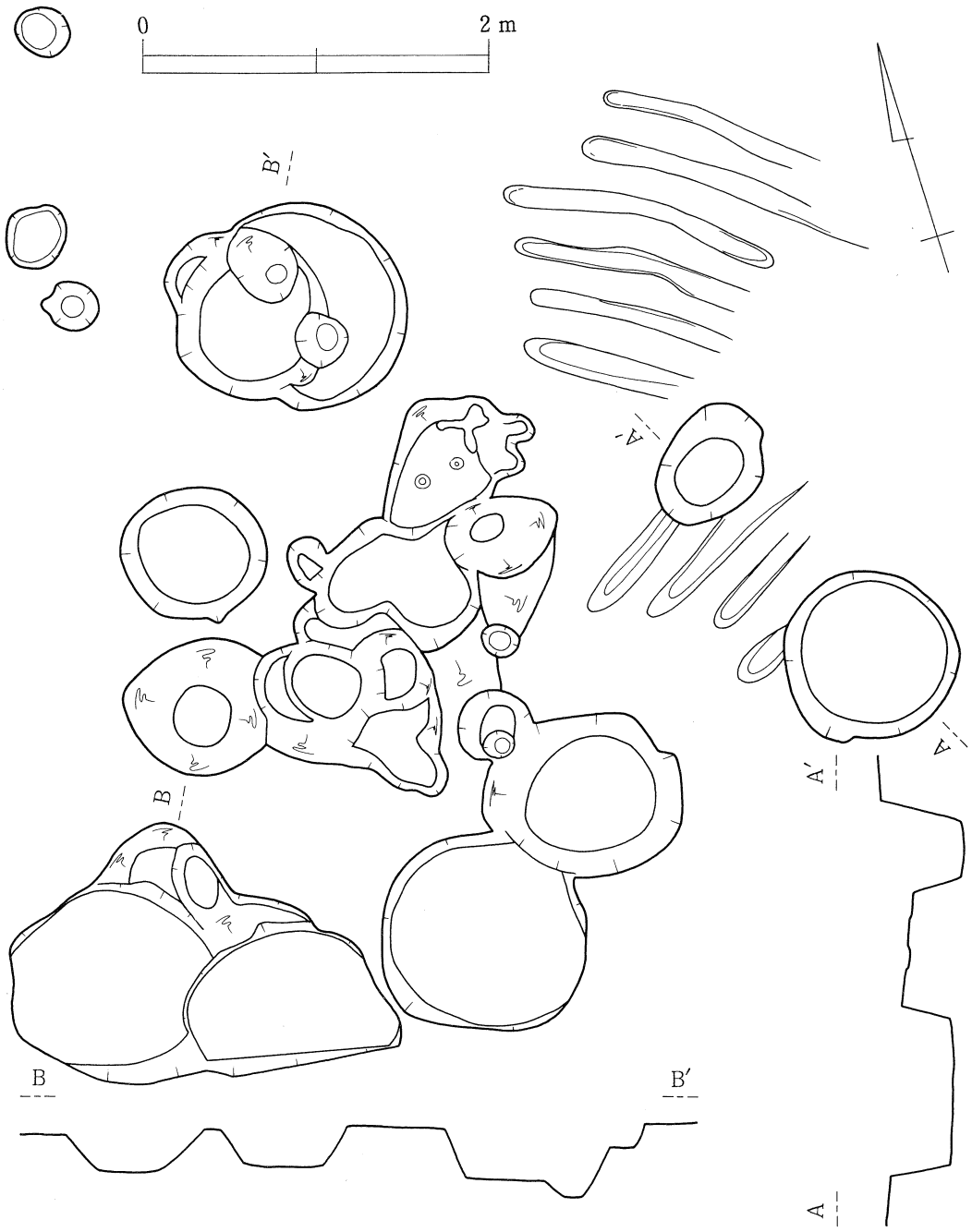
調査区域中央に位置する。東西約85㎝、南北約75㎝で、平面形は東西方向にやや円形を呈する。確認面からの深さは約20㎝。

＜11号土坑＞　（第８図）

調査区域中央、10号土坑南側に位置する。径85㎝前後の不整円形で、深さ25㎝。擂り鉢状の土坑である。本土坑の東北側には焼土があったり、凸凹であった。

＜12号土坑＞　（第８図）

調査区域中央、10号土坑北側に位置する。確認面からの深さ25㎝程の土坑である。



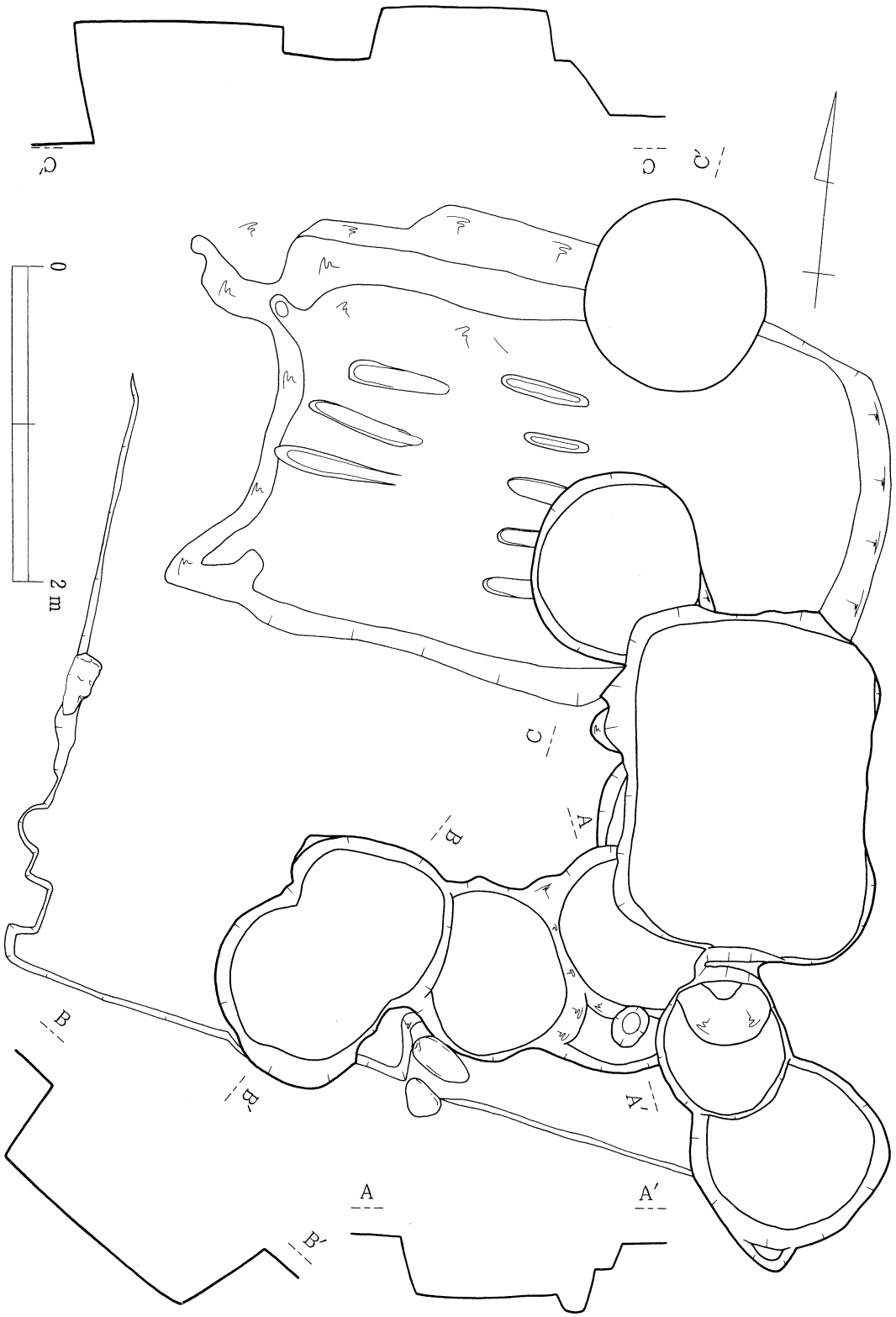
第８図　７・８・10・11・12・13・14・15号土坑平・断面図　（１／40）

＜13号土坑＞　（第６・８図）

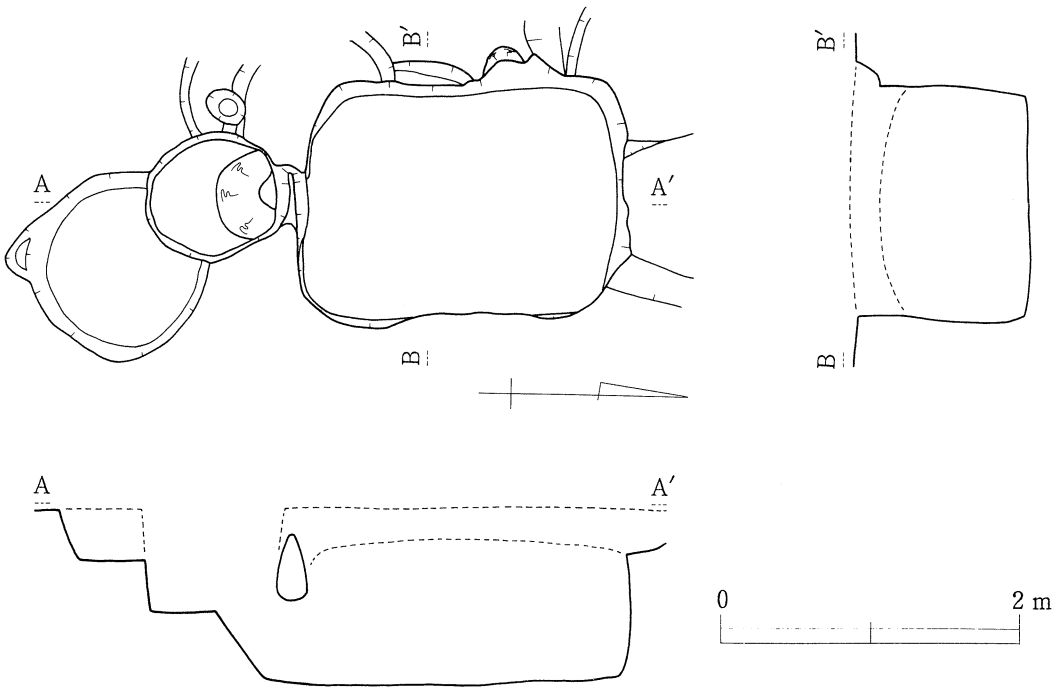
調査区域中央南側に位置する。平面形は不整の円形を呈し、径は1.2m。ローム層面からの深さは60cm程である。北東側は８号土坑と重複している。

＜14号土坑＞　（第６・８図）

調査区域中央南端に位置する。南側は調査区域外で完掘出来なかった。平面形は円形であろう。



第9図　16・17・18・19・20・21・22・23号土坑平・断面図　（1／40）



第10図　1号地下式土壙平・断面図　（1／50）

直径は東西で1.1m。ローム層面からの深さは60cm程。中断がやや膨らんだ土坑である。西側は15号土坑を切って構築される。

＜15号土坑＞　（第6・8図）

調査区域中央南端に位置する。東側は14号土坑に切られている。穴の径は1.2m前後で、平面形は不整の円形を呈する。ローム層面からの深さは40cm前後。

＜16号土坑＞　（第9・10図）

調査区域中央南西側に位置する。穴の径は1.2m前後で、平面形は不整の円形を呈する。北西側は1号地下式土壙に切られている。確認面からの深さは35cm前後。

＜17号土坑＞　（第9図）

調査区域西側南に位置する。他の土坑との重複が著しく、僅かしか遺存していない。円形の土坑と思われる。中に小さなピットが確認された。

＜18号土坑＞　（第9図）

調査区域西側南に位置する。1号地下式土壙に切られ、また他の土坑と重複が著しい。平面形は円形であろう。遺存部分の長さは1.1mで、深さ40cm程である。

＜19号土坑＞　（第6・9図）

調査区域西側南に位置する。東側は17・18号土坑、西側は20号土坑と重複。平面形はほぼ円形であろう。規模は東西で約1.1m。穴内北側には石が埋まっていた。穴底は中央部分が凹む形態を呈しており、確認面からの深さは35cm前後。

＜20号土坑＞　（第９図）

調査区域西側南に位置する。東側は19号土坑、南側は21号土坑と重複。平面形はほぼ円形であろう。規模は東西で約1.1ｍ。確認面からの深さは55㎝前後。

＜21号土坑＞　（第９図）

調査区域西側南に位置する。北側は20号土坑と重複。平面形はほぼ円形であろう。規模は東西で約1.1ｍ。確認面からの深さは55㎝前後であるが、20号土坑より若干浅い。

＜22号土坑＞　（第９図）

調査区域西側に位置する。本遺構と23号土坑の辺りは攪乱されており、重機の爪痕があった。攪乱土層を取り除いた時点で確認された。南東側は１号地下式土壙によって切られている。東西約1.1ｍ、南北約1.2ｍで、平面形は南北に長い円形である。確認面からの深さは約30㎝。

＜23号土坑＞　（第９図）

調査区域西側、22号土坑の北側に位置する。22号土坑と同様攪乱土層を取り除いた時点で確認された。東西約1.1ｍ、南北約1.2ｍで、平面形は南北に長い円形である。ローム層面からの深さは約75㎝。本土坑は口径よりも底径が広く、断面がフラスコ状ピットに似る。

＜１号地下式土壙＞　（第９・10図）

調査区域西側に位置する。確認面からの地下室までの深さは約1.15ｍ。竪坑は入り口部の形態は不詳であるが、垂直に入り込み、段を設けて斜めに北側に地下室を掘ってある。地下室の平面形は隅円長方形で、東西約1.5ｍ、南北約2ｍの規模をもつ。天井部分は崩れてしまっていた。

Ⅵ　遺　　物

本遺跡から出土した遺物は土器が主体で、遺構に伴うものは少なくしかも破片が殆どであった。時代的には縄文時代の物が多く、その他古墳・平安時代のものもあった。

＜１号埋甕＞　（第11図）　　（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	甕	－,44.0, －	砂粒を含む	にぶい赤褐色	口縁部は凸帯と連続押引き文。胴部には、断面三角形状の隆帯によって区画文が施される。口縁部～胴部破片

＜１号土坑出土遺物＞　（第12図）　　（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい褐色 灰褐色	口縁部下部に縄文がみられる。口縁部破片
2	縄文土器		－，－，－	砂粒を含む	明赤褐色	連続刺突文が施されている。破片
3	縄文土器		－，－，－	金雲母と砂粒を含む	にぶい褐色	隆帯と沈線がみられる。破片

＜2号土坑出土遺物＞　（第13図）　　（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器		－，－，－	白色粒子 金雲母を含む	明褐色 明赤褐色	隆帯と沈線が施されている。 口縁部破片
2	縄文土器		－，－，－	金雲母を含む	明赤褐色	口縁部に沈線、胴部には連続刺突文が施される。 口縁部破片
3	縄文土器		－，－，－	砂粒を含む	浅黄橙色	有刻隆帯の間に沈線文が施される。 破片
4	縄文土器		－，－，－	金雲母と砂粒を含む	にぶい黄橙色 明赤褐色	沈線と充填縄文が施されている。 破片
5	縄文土器		－，－，－	黒、白、砂粒を含む	橙色	斜位の条痕文が施される。 破片

＜4号土坑出土遺物＞　（第14図）　　（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－,37.0，－	白色粒子を含む	明赤褐色	隆帯による楕円形の区画の内側に連続刺突文が施されている。 口縁部破片
2	縄文土器	深鉢	－,38.0，－	砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい褐色	連続押引き文、有刻隆帯、隆帯文が施される。 口縁～胴部破片
3	縄文土器	深鉢	－，－,18.5	砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい褐色	内外面磨きがかけられている。 底部破片
4	縄文土器	深鉢	－，－，－	白色粒子を含む	にぶい褐色 灰褐色	連続刺突文が施されている。 破片
5	縄文土器		－，－，－	砂粒を含む	褐色 暗褐色	有刻隆帯と連続押引き文が施されている。 口縁部破片
6	縄文土器	深鉢	－，－，－	砂粒を含む	赤褐色 黒褐色	連続押引きによる沈線文。 口縁部破片
7	縄文土器		－，－，－	雲母と砂粒を含む	にぶい黄橙色	連続刺突文が施されている。 破片
8	縄文土器	深鉢	－，－，－	砂粒を含む	赤褐色 にぶい赤褐色	連続刺突文の施される顔面把手。
9	縄文土器		－，－，－	白色粒子を含む	黒褐色	連続押引きによる沈線文。 口縁部破片
10	縄文土器		－，－，－	白色粒子を多く含む	黒褐色	隆帯文と連続刺突文が施される。 口縁部破片

＜5号土坑出土遺物＞　（第15図）　　（単位　cm）

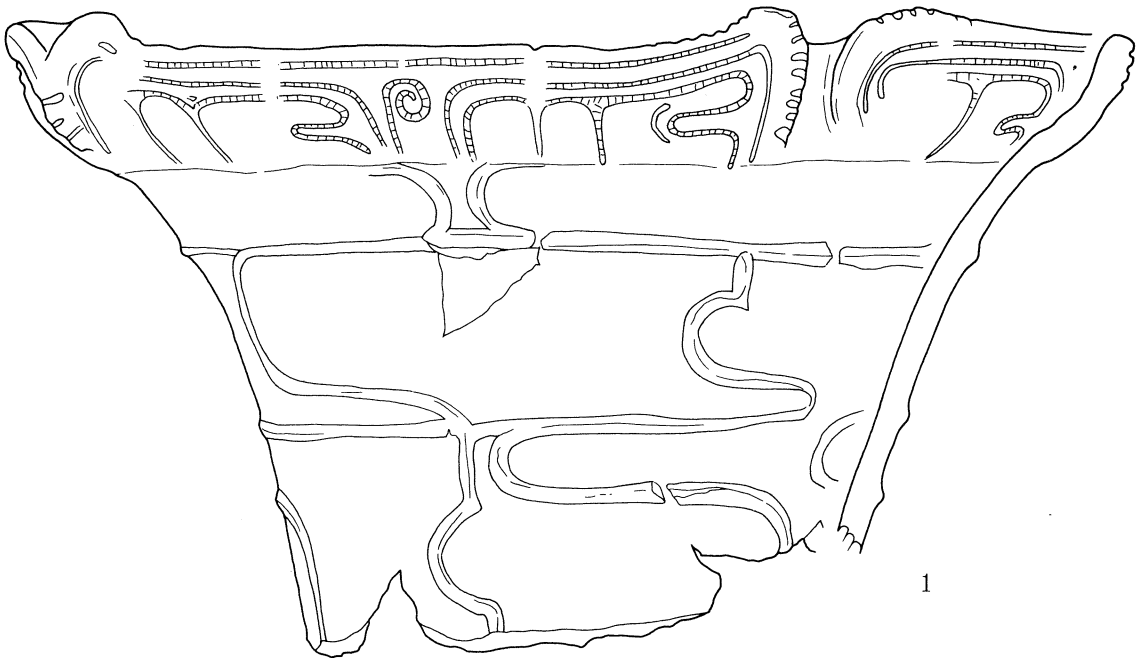
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器		－，－，－	白色粒子を含む	にぶい黄褐色 黒褐色	連続刺突文が施されている。 口縁部破片

＜6号土坑出土遺物＞　（第16図）　　（単位　cm）

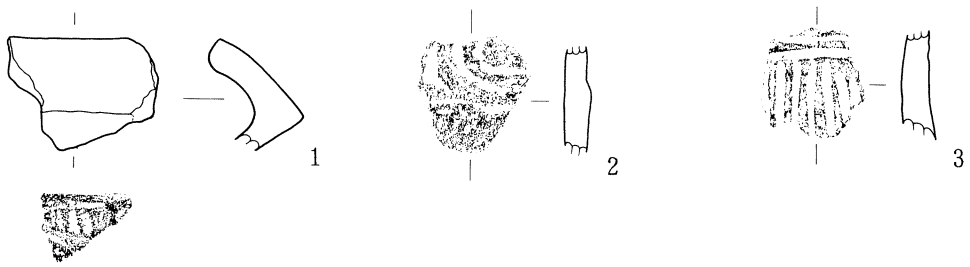
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	口縁部に比較的太い沈線が一本横走している。 口縁部破片
2	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色 褐灰色	口縁部に沈線が一本横走し、胴部には条線文がみられる。 口縁部破片
3	縄文 土器		－，－，－	金雲母と砂粒を含む	明黄褐色 黒褐色	比較的太い沈線文。 破片
4	縄文 土器		－，－，－	金雲母と砂粒を含む	にぶい黄橙色 褐色	V字の沈線文の間に縄文が施されている。 破片
5	縄文 土器		－，－，－	金雲母と砂粒を含む	黒褐色 にぶい橙色	比較的太い沈線文の中に充填縄文が施されている。 破片
6	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	明黄褐色 にぶい黄橙色	沈線文が施されている。 破片
7	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい黄橙色 黒褐色	隆帯で区割された間は逆ハの字文が施されている。 破片
8	縄文 土器		－．　－，－	砂粒を含む	にぶい橙色 橙色	横沈線と列点状刺突文が施されている。 口縁部破片
9	縄文 土器		－．　－，－	金雲母と白色砂粒を含む	赤褐色 にぶい橙色	比較的太い沈線により磨消縄文の手法が施される。 破片

＜8号土坑出土遺物＞　（第17図）　　（単位　cm）

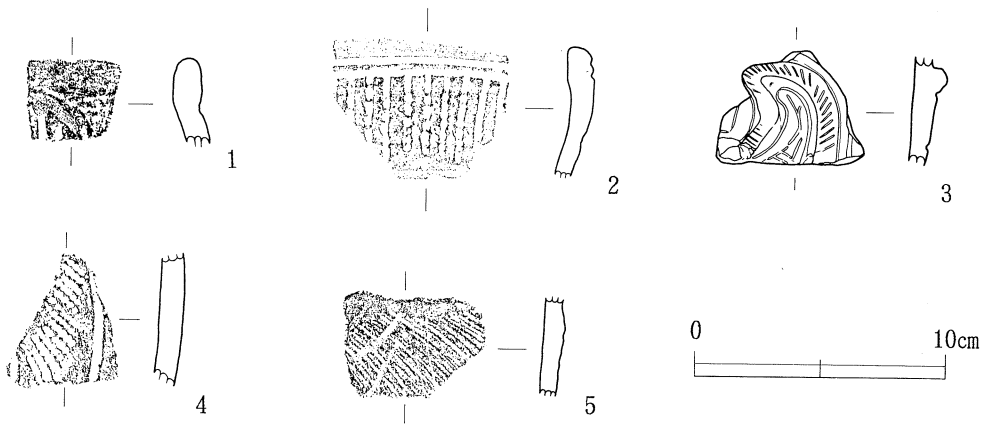
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文 土器		－，－，－	金雲母 砂粒を含む	にぶい赤褐色	口縁部に突起があり、区画の内側に連続刺突文が施される。 口縁部破片
2	縄文 土器		－，－，－	金雲母 砂粒を含む	暗褐色 にぶい赤褐色	口縁部に突起と連続刺突文が施される。 口縁部破片
3	縄文 土器		－，－，－	雲母と砂粒を含む	にぶい褐色 黒褐色	何種かの刺突文が施される。 破片
4	縄文 土器		－，－，－	金雲母 砂粒を含む	赤褐色 暗赤褐色	連続刺突文が施される。 破片
5	縄文 土器	深鉢	－,29.4，－	白色砂粒を含む	褐色 暗赤褐色	内外ていねいな磨き。 外面口縁部に２本の隆帯がめぐりその間に刺突文が施される。 突起あり、外面煤付着。口縁部破片
6	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色 暗褐色	沈線と充填縄文が施される。 破片
7	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色	内外磨き、８字状？把手。 口縁部破片
8			－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色 にぶい黄橙色	縄文が施される。 口縁部破片
9	縄文 土器		－,21.8，－	金雲母 砂粒を含む	にぶい黄橙色 暗褐色	沈線と刺突文が施される。 把手あり。 口縁部破片



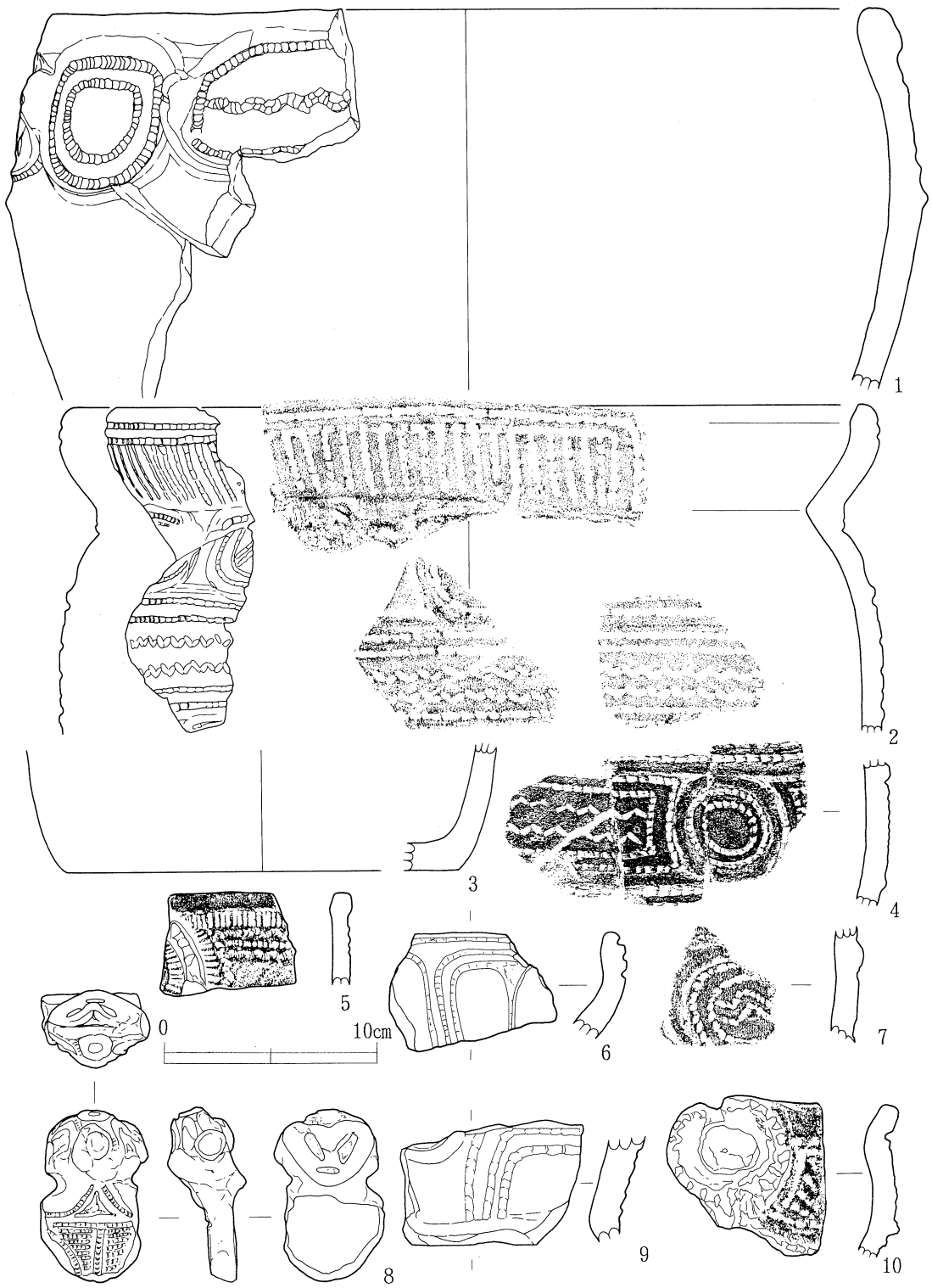
第11図　1号埋甕　（1／3）



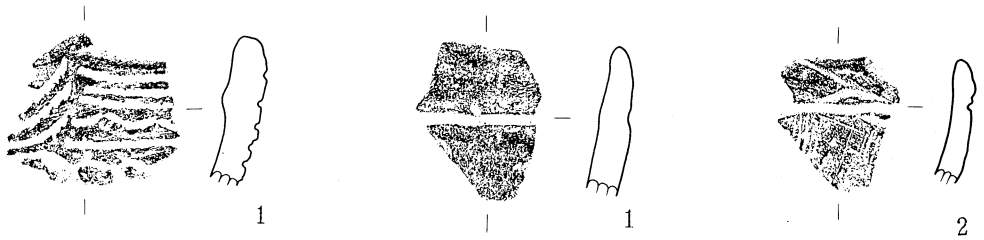
第12図　1号土坑出土遺物　（1／3）



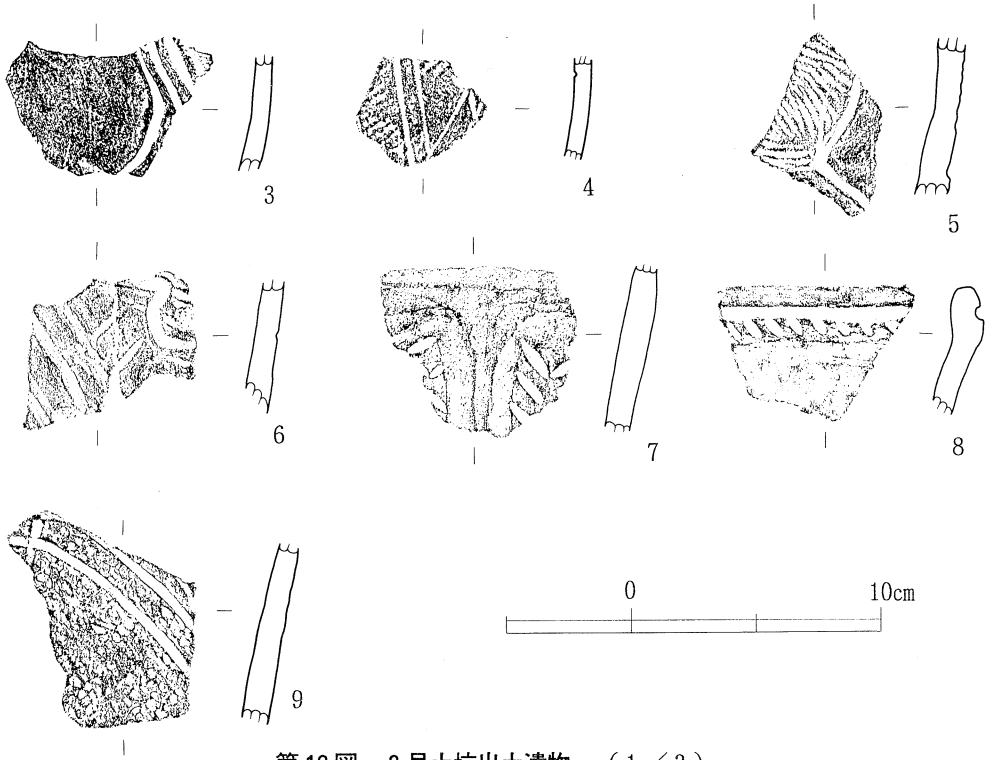
第13図　2号土坑出土遺物　（1／3）



第14図　4号土坑出土遺物　（1／3）



第15図　5号土坑出土遺物（1／3）



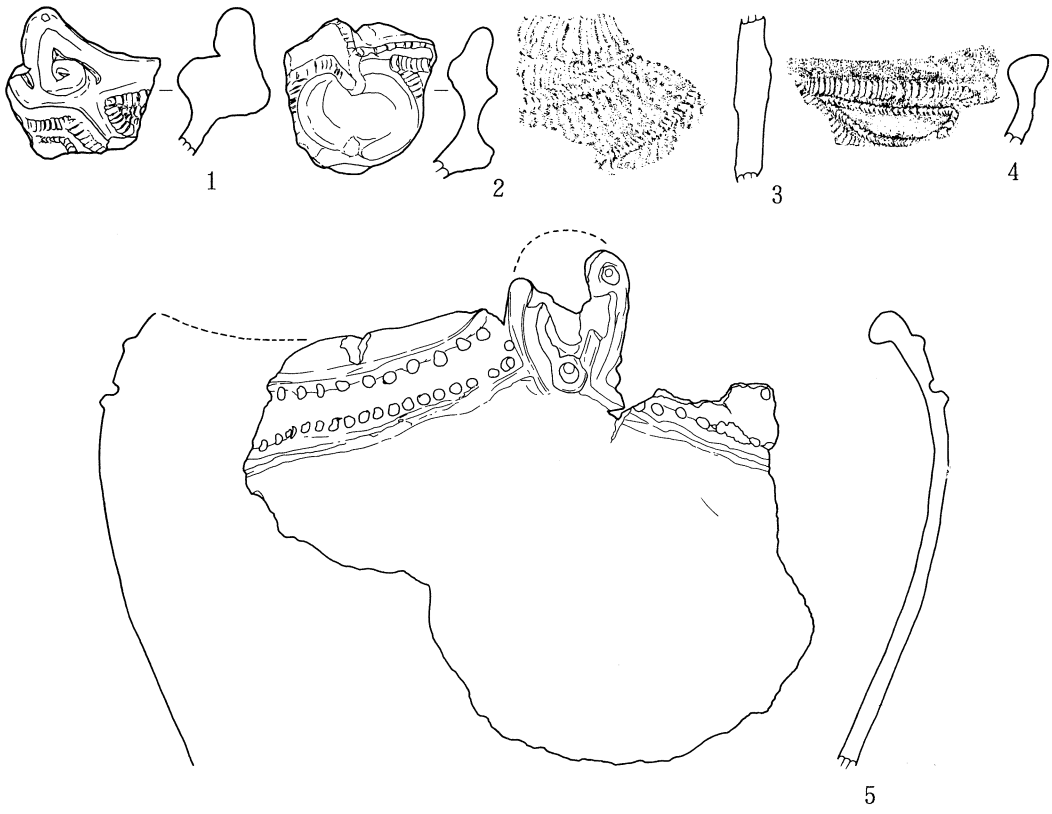
第16図　6号土坑出土遺物　（1／3）

＜9号土坑出土遺物＞　（第18図）　　（単位　cm）

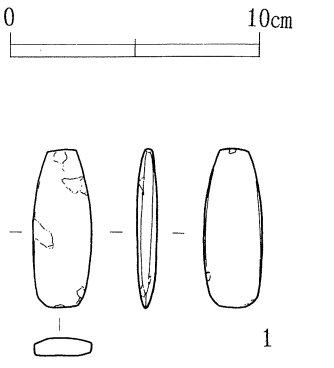
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
1	石器	磨製石斧				

＜11号土坑出土遺物＞　（第19図）　　（単位　cm）

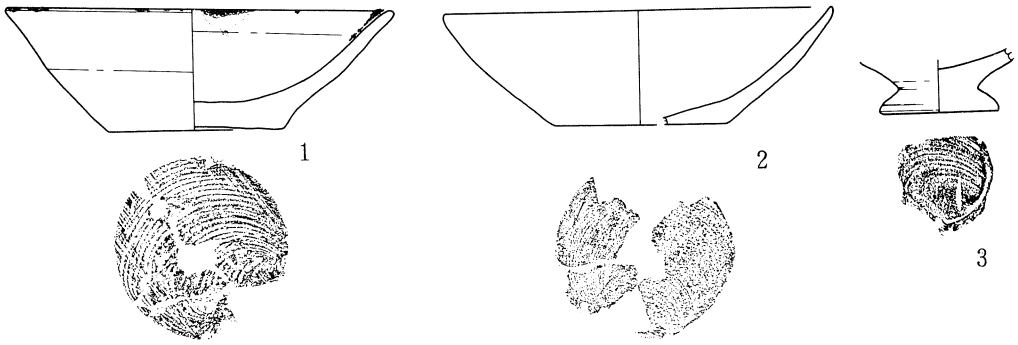
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師	坏	4.9,15.3, 7.0	金雲母を含む	黒褐色系	ロクロ水挽か。口縁部煤付着。 ほぼ完形
2	土師	坏	4.55,15.5, 6.9	金雲母を含む	赤白褐色系	ロクロ水挽き。 ⅓欠損
3	土師	坏	－, －, 4.7	金雲母を含む	褪暗褐色	ロクロ水挽き。 底部破片



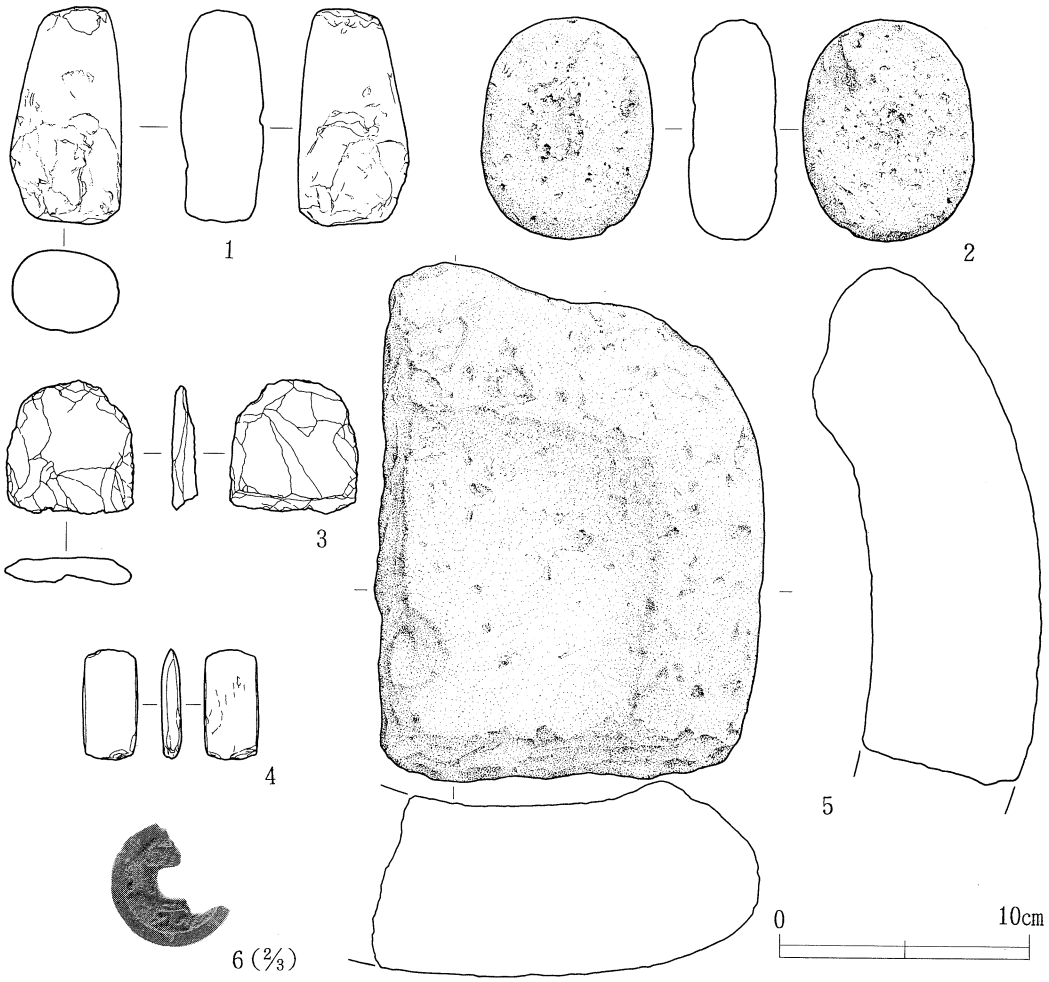
第17図　8号土坑出土遺物　（1／3）



第18図　9号土坑出土遺物（1／3）



第19図　11号土坑出土遺物　（1／3）



第20図　1号地下式土壙出土遺物　（1／3）

＜1号地下式土壙出土遺物＞（第20図）　　（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	石器	磨製石斧				
2	石器	くぼみ石				
3	石器	磨製石斧				
4	石器	磨製石斧				
5	石器	石皿				
6	古銭		－, 2.25, －			○元○寶

＜遺構外出土遺物＞（第21・22・23図）　　（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器		－，－，－	白色粒子を含む	明赤褐色 にぶい橙色	有刻隆帯が垂下し、その両面に連続押引き文が施されている。 口縁部破片
2	縄文土器		－，－，－	白色粒子を含む	にぶい橙色	連続押引き文が施されている。 口縁部破片
3	縄文土器		－，－，－	白色粒子を含む	にぶい橙色	楕円形の区画の内側に連続刺突文が施されている。 口縁部破片
4	縄文土器		－，－，－	白色粒子を含む	橙　色	隆帯による楕円区画の内側に押引き文が巡り、中心に刺突文が施されている。
5	縄文土器		－，－，－	白色粒子を含む	橙　色	隆帯による区画と半截竹管による連続刺突文が施されている。 破片
6	縄文土器		－，－，－	白色粒子を含む	にぶい橙色	半截竹管による連続押引き文が施されている。 口縁部破片
7	縄文土器		－，－，－	白色粒子、雲母を含む	灰黄褐色 にぶい黄橙色	隆帯の回りに連続刺突文が施されている。 破片
8	縄文土器		－，－，－	砂粒、金雲母を含む	橙　色 灰褐色	連続押引き文による沈線によって曲線的な区画文が施されている。 破片
9	縄文土器		－，－，－	白色粒子を含む	明赤褐色	条線地に円形浮文が施されている。 破片
10	縄文土器		－，－，－	白色粒子、雲母を含む	橙　色	条線地に円形浮文が施されている。 破片
11	縄文土器		－，－，－	白色粒子を含む	橙　色 にぶい赤褐色	半截竹管による押引き文。 円形浮文が施されている。 破片
12	縄文土器		－，－，－	白色粒子を含む	にぶい黄橙色 赤褐色	条線により模様が施されている。 内面に少量の炭が付着。 破片
13	縄文土器		－，－，－	白色粒子、金雲母を含む	明赤褐色 赤褐色	２本の平行沈線がめぐり、その間に充填縄文が施される。 口縁部破片

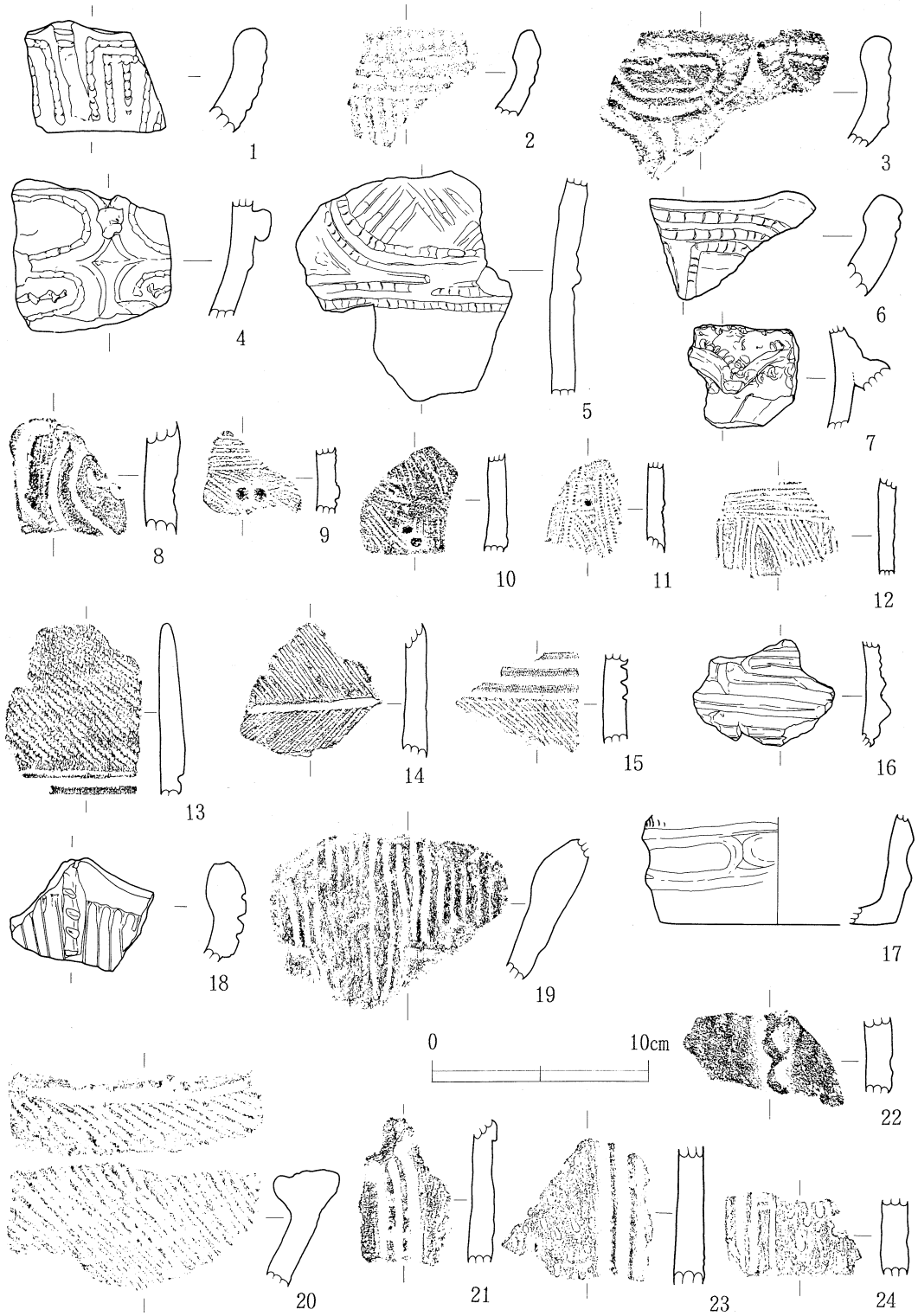
番号	種 類	器形	法量 器高・口径・底径	胎 土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
14	縄文 土器		－，－，－	白色粒子、 金雲母を含む	明赤褐色	比較的太い沈線の間に条線による綾杉文が施されている。 破片
15	縄文 土器		－，－，－	白色粒子、 金雲母を含む	赤褐色 暗赤褐色	隆帯の下に斜条線が施されている。 破片
16	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい褐色 橙　色	隆帯による区画文。 破片
17	縄文 土器		－，－，－	細かい砂粒を含む	暗灰黄色 にぶい褐色	隆帯による区画文。 底部破片
18	縄文 土器		－，－，－	微砂粒を含む	にぶい橙色 にぶい黄橙色	山形の口縁部の中央から有刻隆帯とその両脇に平行に沈線が下垂する。 波状口縁部破片
19	縄文 土器		－，－，－	粗い砂粒を含む	橙　色	沈線文。 破片
20	縄文 土器		－，－，－	白色粒子、 金雲母を含む	にぶい褐色 にぶい橙色	斜条線が施されている。 口縁部破片
21	縄文 土器		－，－，－	微砂粒を含む	にぶい橙色 橙　色	粘土ひもによる隆帯文が施されている。 破片
22	縄文 土器		－，－，－	粗い白色粒子を多く含む	にぶい橙色 にぶい褐色	粘土ひもによる蛇行する懸垂文。 破片
23	縄文 土器		－，－，－	粗い砂粒を含む	にぶい橙色	下垂する２本の隆帯の間に刺突文が施されている。 破片
24	縄文 土器		－，－，－	粗い砂粒を含む	にぶい橙色	下垂する沈線文の間に刺突文が施されている。 破片
25	縄文 土器		－，－，－	砂粒とやや粗い白色粒子を含む	にぶい橙色	八の字状文。 破片
26	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい黄橙色	下垂する２本の沈線の間に条線文。 破片
27	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色	口縁部に比較的太い沈線が一本横走し、胴部に条線文。 口縁部破片
28	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい黄橙色	口縁部に比較的太い沈線が一本横走し、胴部は縄文が施されているが磨滅により不鮮明。口縁部破片
29	縄文 土器		－，－，－	細かい砂粒を含む	黒褐色 にぶい赤褐色	縄文と比較的太く浅い沈線文。 破片
30	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	口縁部に比較的太い沈線が一本横走し、胴部に縦位に条線文。 口縁部破片
31	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色 橙　色	鋸歯状文が施されている。 破片
32	縄文 土器		－，－，－	細かい砂粒を含む	にぶい橙色	縄文の地文に鋭い沈線文が施されている。 破片
33	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	橙　色 にぶい褐色	比較的太い沈線の間に縄文が施されている。 破片

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
34	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	橙　色 にぶい褐色	縄文の地文に比較的太い沈線文が施されている。 破片
35	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	橙　色 にぶい橙色	縄文の地文に比較的太い沈線文が施されている。 破片
36	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい褐色	口縁部に蛇行する沈線を巡らせ無文と縄文を分ける。 口縁部破片
37	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	暗赤褐色 黒褐色	比較的太い沈線により無文と縄文に分ける。 口縁部破片
38	縄文 土器		－，－，－	金雲母と粗い砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色	比較的太い沈線文の間に充填縄文が施されている。 破片
39	縄文 土器		－，－，－	細かい雲母、金雲母を多く含む	にぶい黄橙色 灰褐色	下垂する比較的太い沈線の間に縄文が施されている。 破片
40	縄文 土器		－，－，－	粗い砂粒を含む	にぶい黄橙色	比較的太い沈線による曲線的な区画文の間に充填縄文が施される。 破片
41	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色	縄文と沈線。 破片
42	縄文 土器		－，－，－	金雲母、砂粒を含む	褐灰色 明赤褐色	沈線の間に縄文が施されている。 破片
43	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	橙　色 明赤褐色	比較的太い沈線による曲線的な区画文の間に縄文が施されている。 破片
44	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	黒褐色 にぶい黄橙色	比較的太い沈線による曲線的な区画文の間に磨消縄文の手法が施される。 破片
45	縄文 土器		－，－，－	白色粒子を含む	にぶい褐色	縄文と沈線。 破片
46	縄文 土器		－，－，－	金雲母、砂粒を含む	橙　色	口縁部にＣ字文があり、胴部に磨消縄文、沈線が施されている。 口縁部破片
47	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	灰褐色 橙　色	内外面磨き。 口縁部破片
48	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	橙　色 にぶい褐色	加曽利Ｂの把手。 口縁部破片
49	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい赤褐色 橙　色	隆帯に刺突文が施されている。 口縁部破片
50	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色から にぶい赤褐色 １部黒変	沈線文様が施されている。 口縁部破片
51	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	黒　色 橙　色	沈線の間に条線が施される。 破片
52	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色	沈線と刺突文が施される。 破片
53	縄文 土器		－，－，－	金雲母を含む	褐　色 にぶい赤褐色	鋭い沈線の区画文の間に充填縄文が施される。 破片

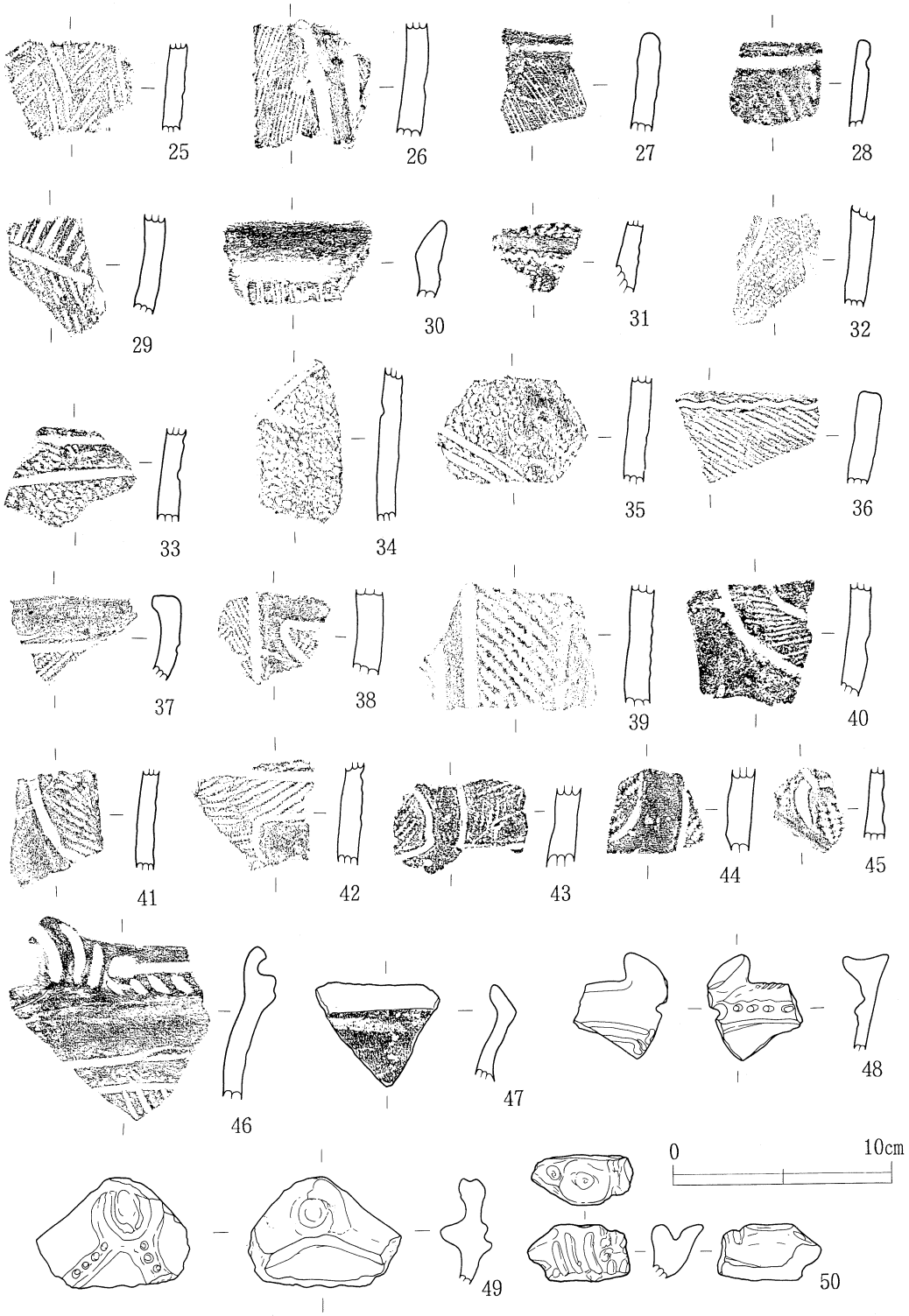
番号	種 類	器形	法 量 器高・口径・底径	胎 土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
54	縄文 土器		－，－，－	金雲母、砂粒を含む	にぶい橙色	沈線文が施される。 破片
55	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色	沈線文が施される。 破片
56	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色	沈線文が施される。 破片
57	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	明赤褐色 極暗赤褐色	沈線文が施される。 破片
58	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	橙 色 にぶい橙色	沈線文が施される。 破片
59	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	黒褐色	沈線文が施される。 破片
60	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	にぶい橙色 黒褐色	口縁部に沈線がめぐる。 胴部無文。 口縁部破片
61	縄文 土器		－，－，－	雲母と砂粒をを含む	黒褐色	口縁部に比較的太い沈線が横走する。 口縁部破片
62	縄文 土器		－，－，－	砂粒を含む	灰黄褐色 にぶい黄橙色	器面磨き、 底部は網代痕。 底部破片
63	縄文	中空 土偶 ？	－，－，－	白色粒子を含む	にぶい橙色	縄文が施される。 破片
64	古墳	甕	－，－，－	金雲母、砂粒を含む	にぶい橙色 橙 色	櫛歯状工具による刺突文と刷毛目が施される。 破片
65	古墳	壷	－，23.6，－	砂粒を含む	橙 色 にぶい橙色	内外磨き。 口縁部刻目がめぐる。 頸部に櫛目状工具による文様がみられる。 口縁部破片
66	須恵器		－，－，－	白色砂粒を含む	灰 色 黒褐色	外面叩目。 破片
67	土師器	皿？	－，－，5.0	細かい金雲母を多く含む	にぶい赤褐色	底部回転糸切り痕。 底部破片

＜遺構外出土石器＞（第24図）　　（単位　cm）

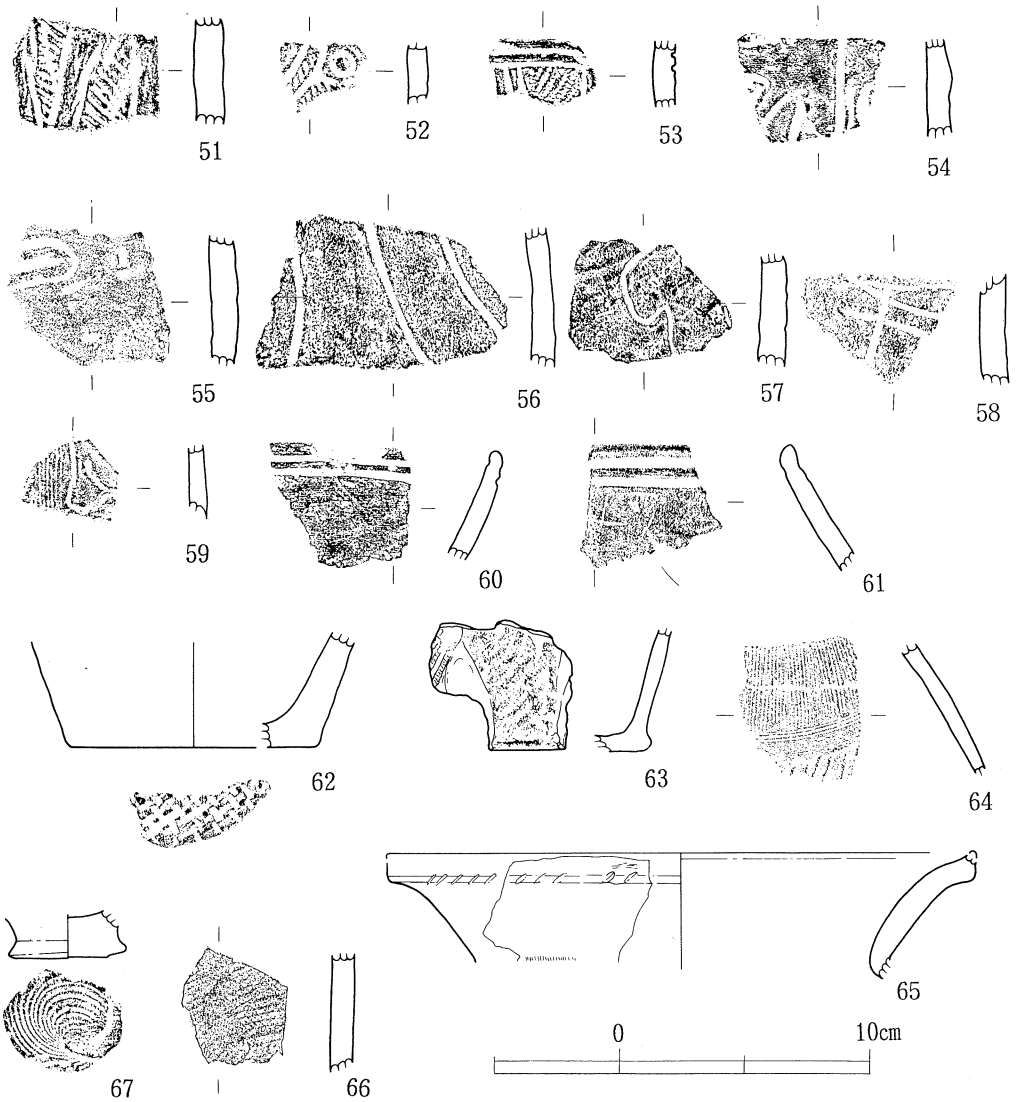
番号	種 類	器形	法 量 器高・口径・底径	胎 土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
1	石器	石斧				
2	石器	石斧				
3	石器	石斧				
4	石器	石斧				



第21図　遺構外出土遺物　（1／3）

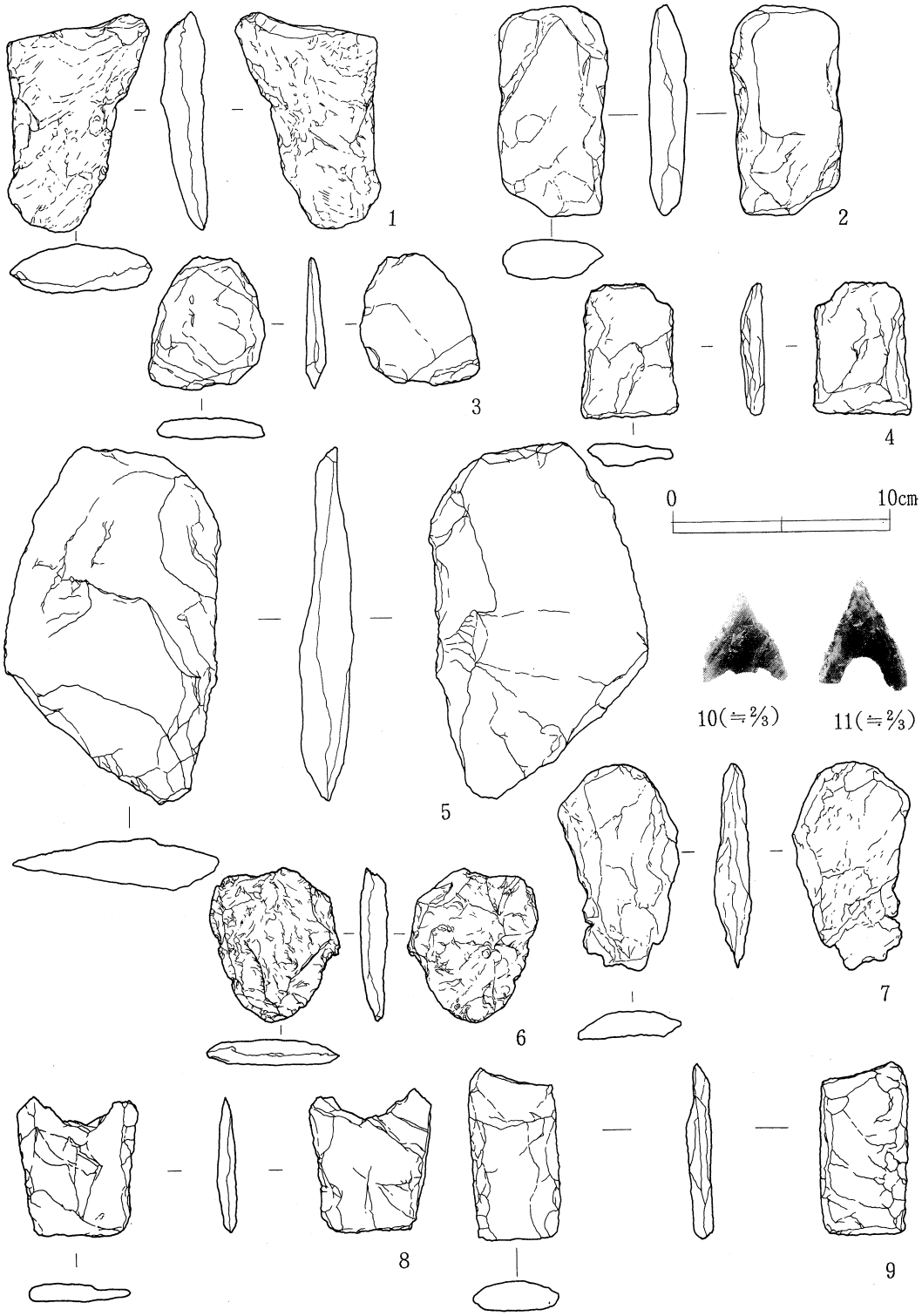


第22図　遺構外出土遺物　(1／3)



第23図　遺構外出土遺物　（1／3）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
5	石器	石斧				
6	石器	石斧				
7	石器	石斧				
8	石器	石斧				
9	石器	石斧				
10	石器	鏃				石材は黒耀石。
11	石器	鏃				石材は黒耀石。



第24図　遺構外出土石器　(1／3)

Ⅶ まとめ

今回の発掘調査では、狭い調査範囲にもかかわらず前章まで見て来たように縄文・古墳・平安時代と中世の遺構と遺物が確認された。

数多く発見された土坑は時期の決定が難しいが、殆どが縄文時代の遺構と思われる。土坑および遺構外からは、前期・中期・後期・晩期の土器片が多く採集され、住居址は確認されなかったが当該地域に古くから人間の存在したことが理解される。同時代の遺跡は今回の調査区域から南側北側並びに東側の畑に広がっているようで、今後調査が及べば住居址が発見され大規模な集落址が予想される。

古墳時代の前期の壷や甕の破片が僅かではあるが出土した点は、今回は確認されなかったが周辺に当該時期の何らかの遺構の存在が推測できる。同時期の市内の遺跡としては大草町久保屋敷遺跡、藤井町坂井南遺跡・後田遺跡等が著名であるが、遺跡の増加と広がりは当時の社会を考える上で重要である。

平安時代末（あるいは中世に入ってしまうかもしれないが）の坏が出土した土坑の北側には焼土が形成されていたが、明確な遺構として把握できなかった。本遺跡の当該時期の詳細は今後今回調査区域の周辺が調査される時に明らかになるであろう。

中世の遺構は地下式土壙１基のみであったが、平成２年に調査された北堂地遺跡からは５基みつかっており、本遺構は集中して作られる傾向があり当然周辺に発見されることであろう。

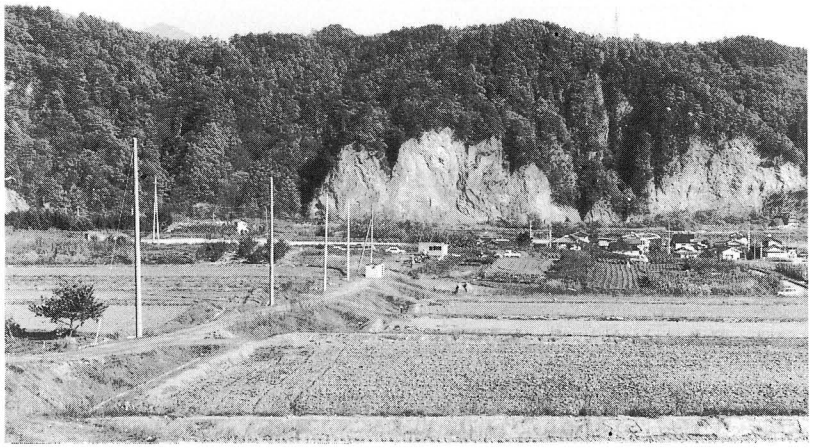
おわりに

堂地遺跡から発見された遺構と遺物は各時期の歴史を解明するうえで重要なものであるが、本報告は限られた作業のなかでなされたもので、遺構と比較的遺存状態の良い遺物を抽出し呈示したにすぎない。遺構・遺物の詳細な検討等がなされず不十分な点は否めないが、本書が今後の調査・研究に資することができれば望外の喜びである。

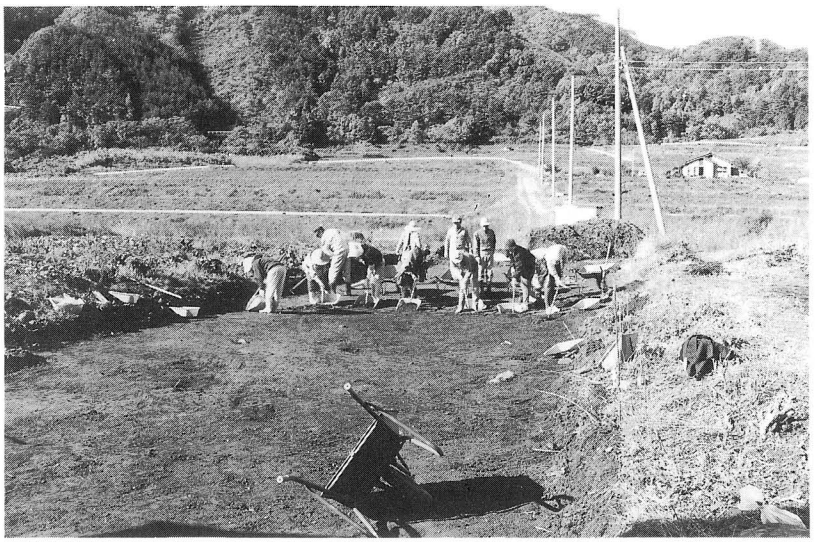
なお、本遺跡の発掘調査は初冬に行われ、地元の皆様の御理解と御協力により円滑に終了することができた。北風の寒い時期にもかかわらず調査に参加していた方々に厚くお礼を申し上げる次第である。

写　真　図　版

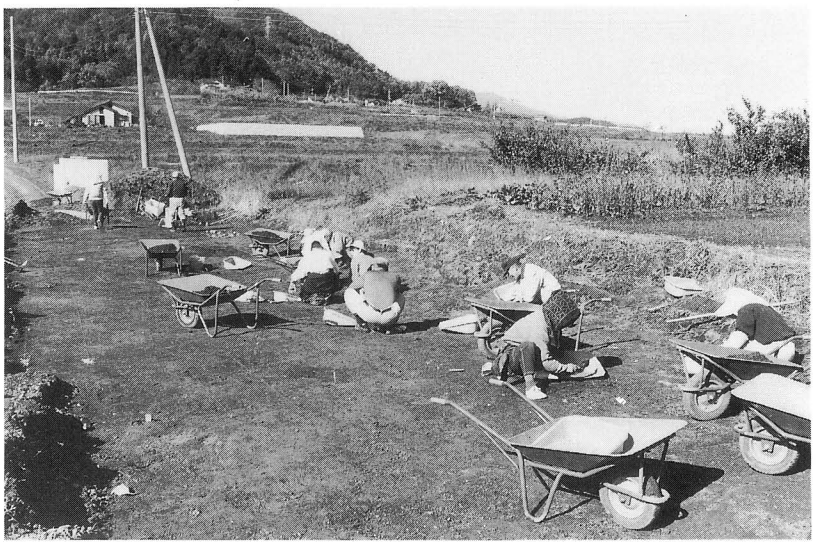
図 版 1



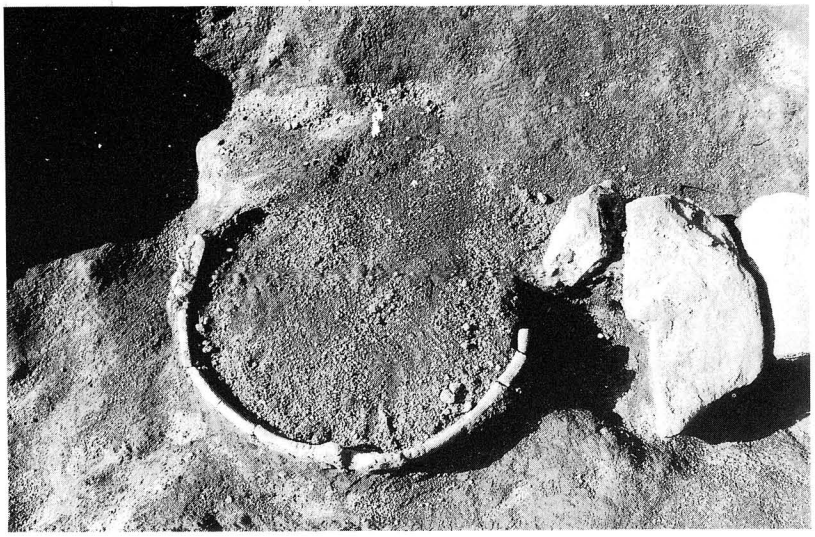
遺跡遠景



遺構確認作業

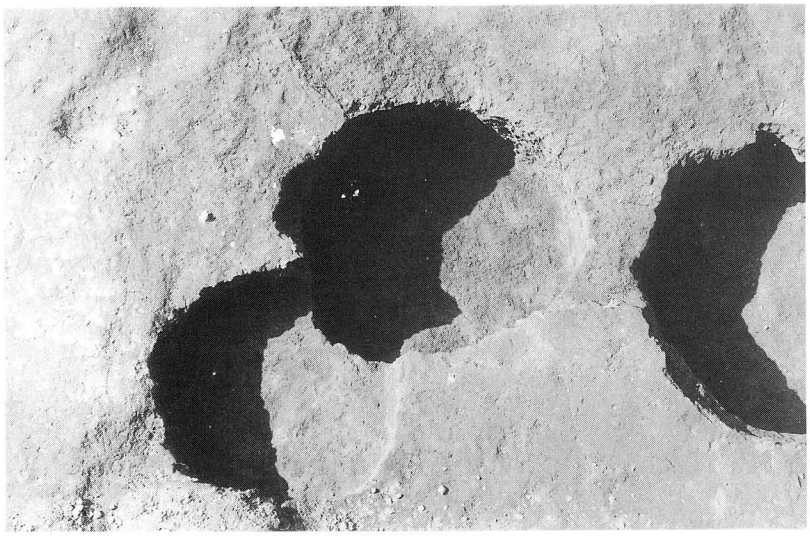


発掘風景

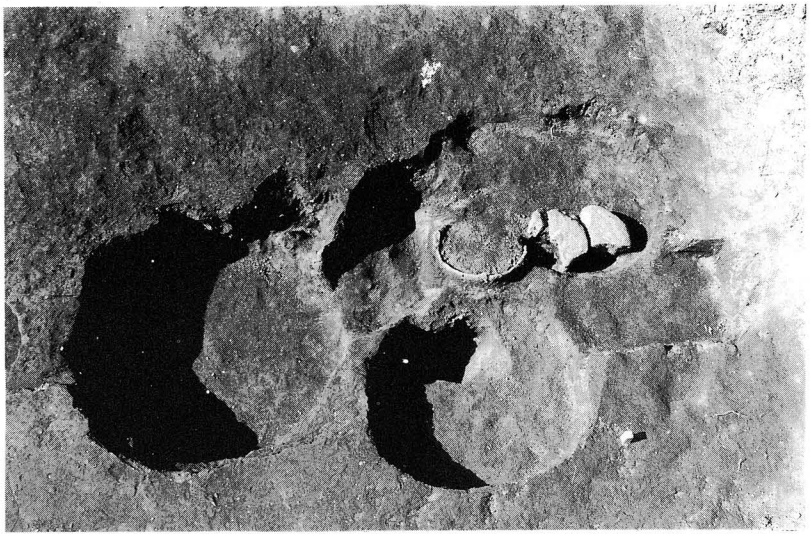


1 号 埋 甕

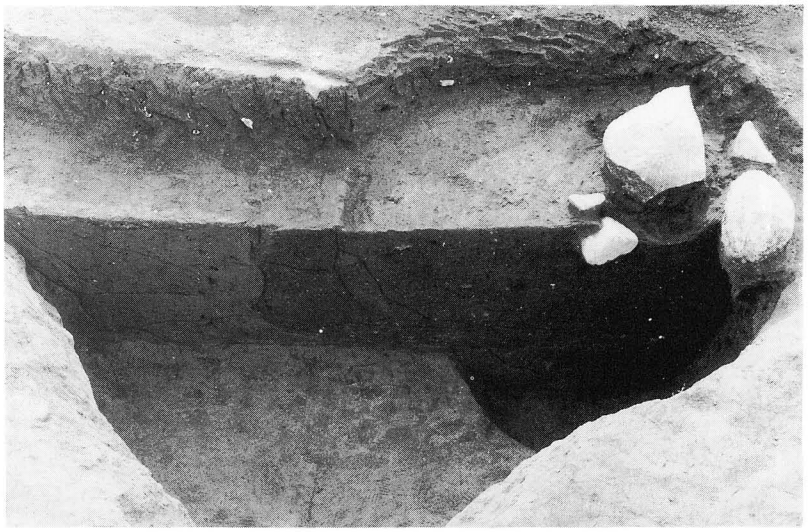
1 号埋甕断面



1 ・ 5 号土坑

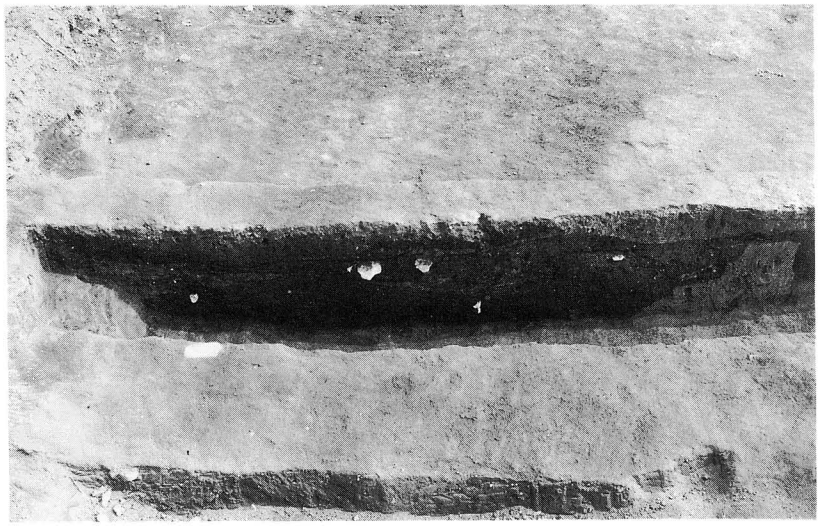


1 号 埋 甕
2 ・ 3 ・ 4 号土坑

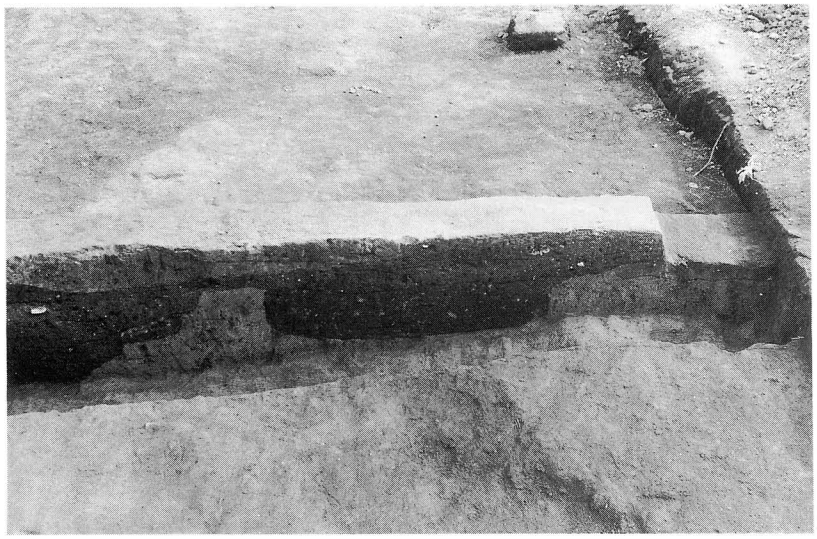


6 号土坑土層断面

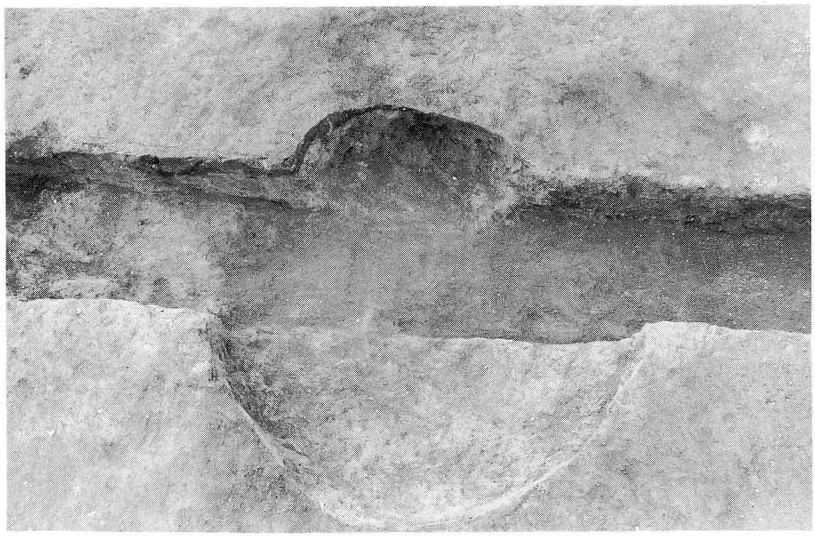
6 号 土 坑



攪乱土層断面
（北側）

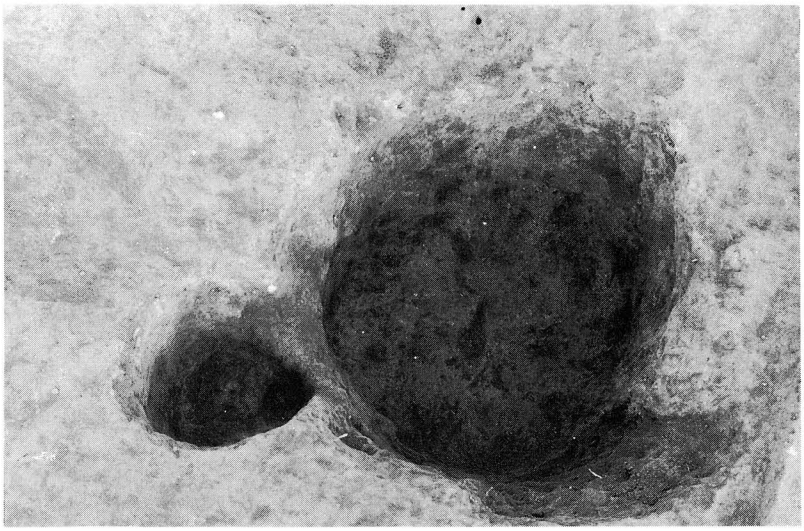


攪乱土層断面
（南側）



9 号 土 坑

図 版 5



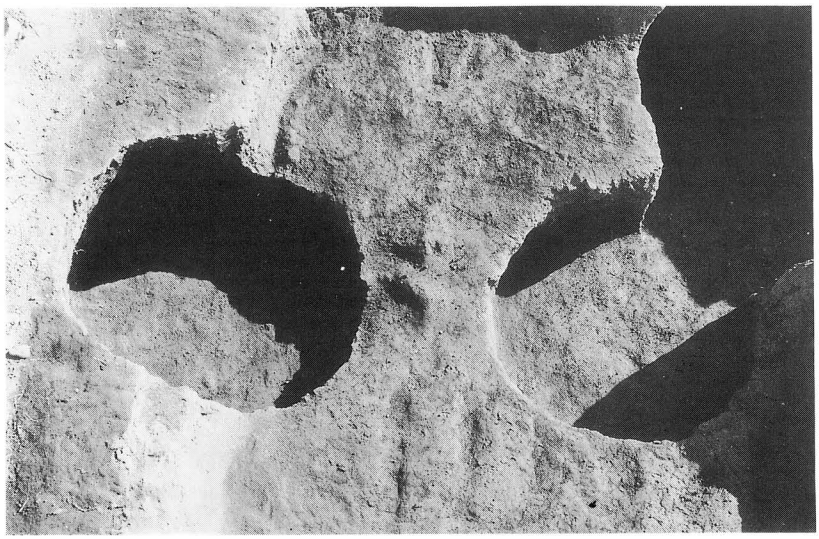
8 号 土 坑

13 号 土 坑

現 場 風 景

8・10・11・12
13・14・15号土坑

14・15号土坑

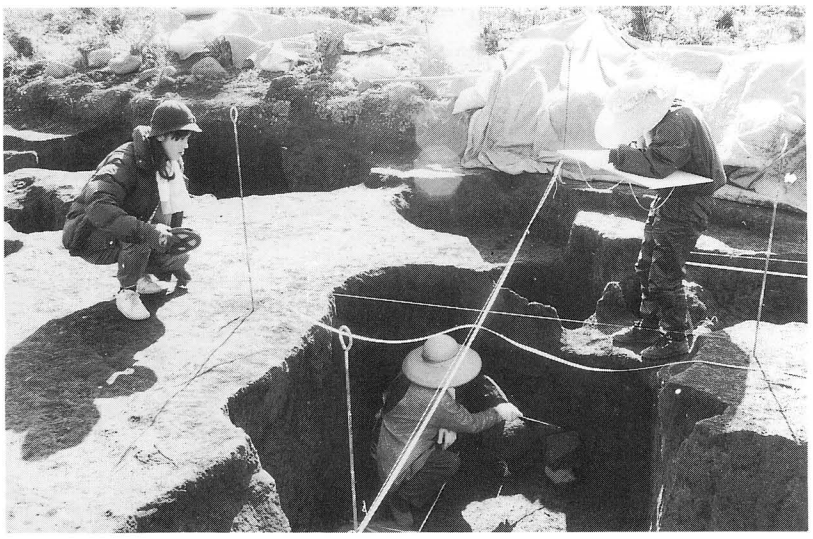


22・23号土坑

図 版 7

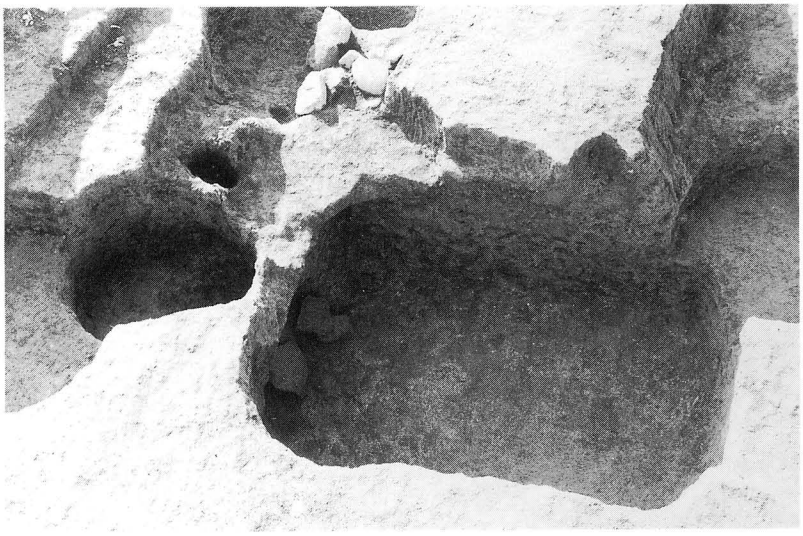
発掘風景

測量風景



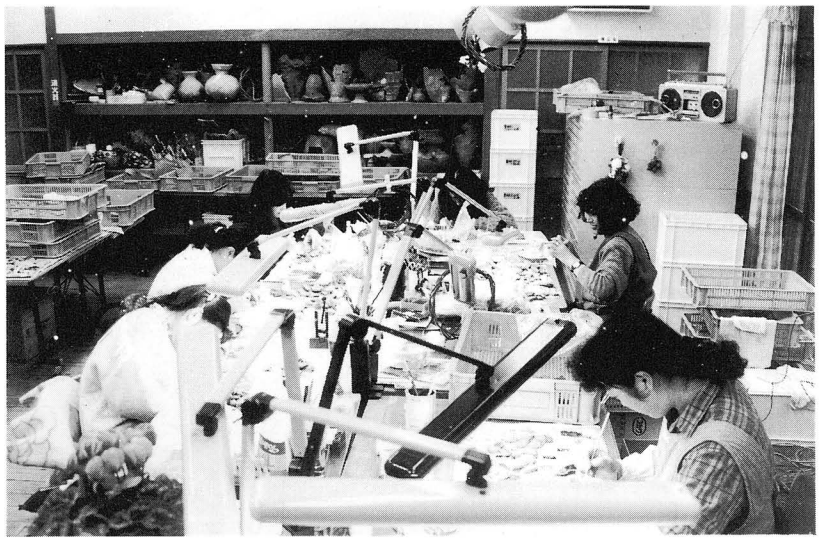
測量風景

16～23号土坑
1号地下式土壙

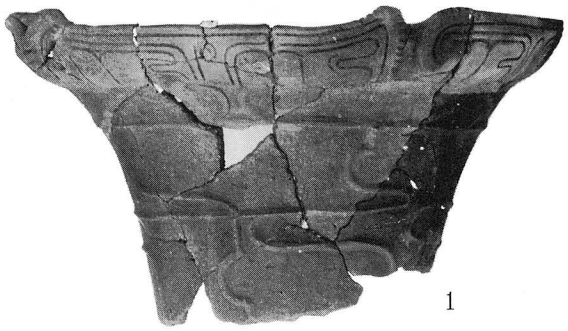


1号地下式土壙

遺跡近景

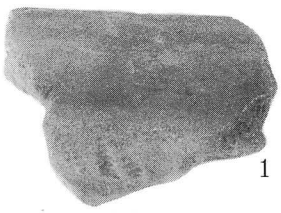


整理作業



1

1号埋甕

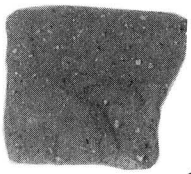


1

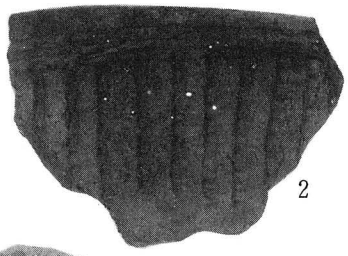
2

3

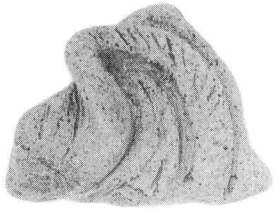
1号土坑出土遺物



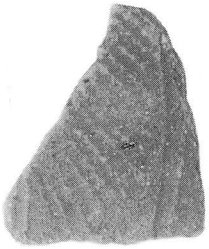
1



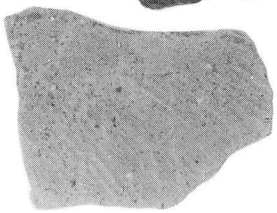
2



3

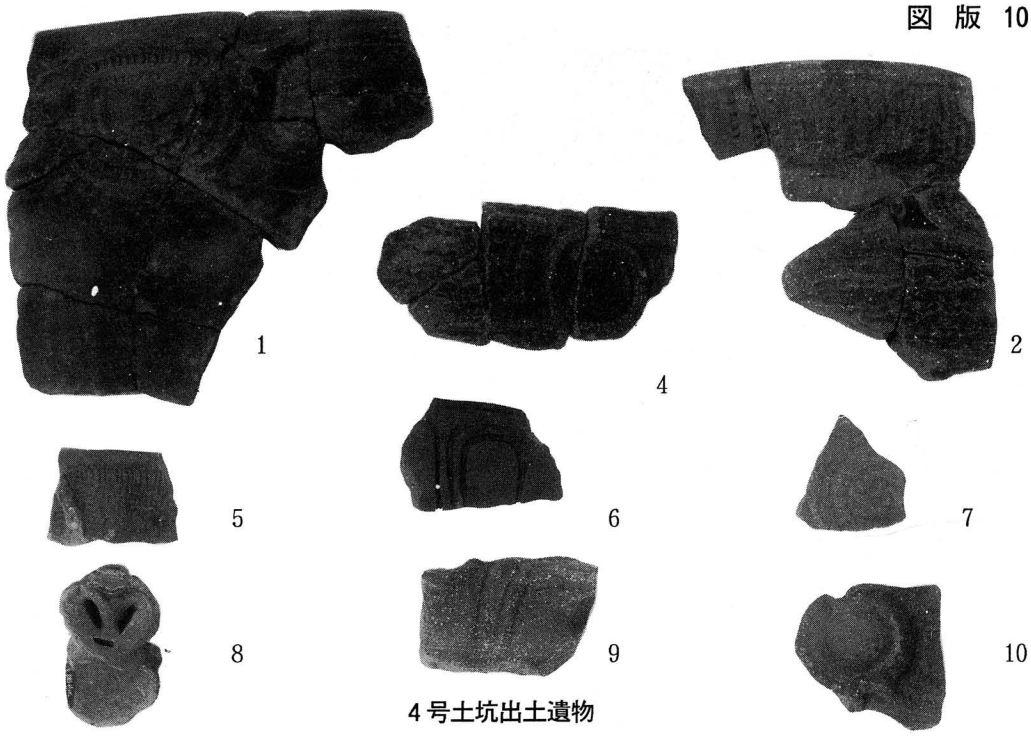


4

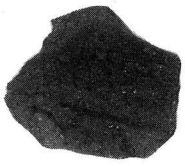


5

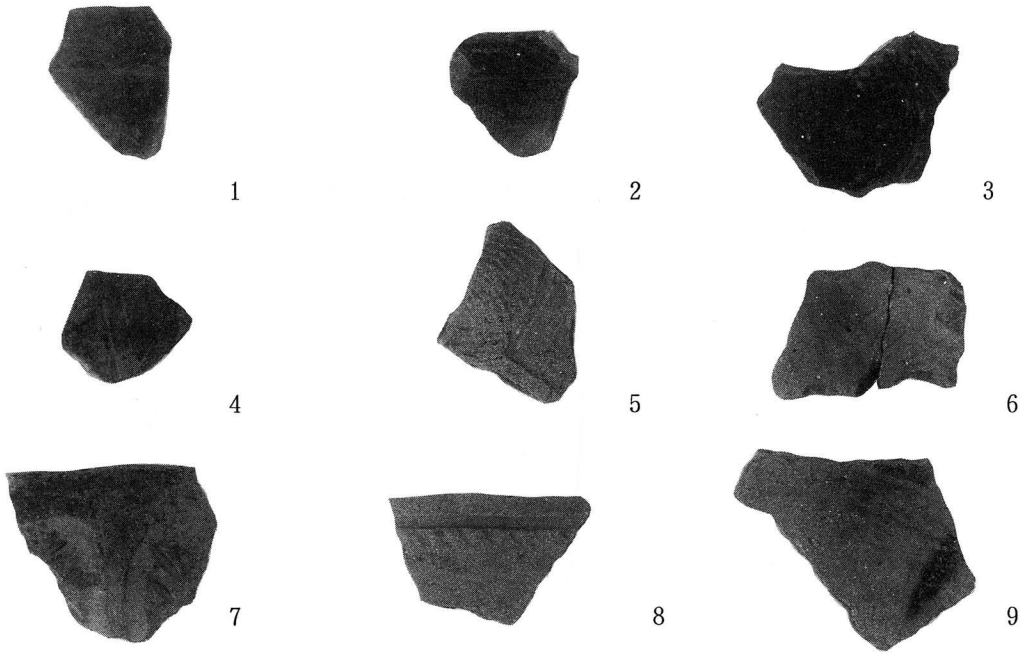
2号土坑出土遺物



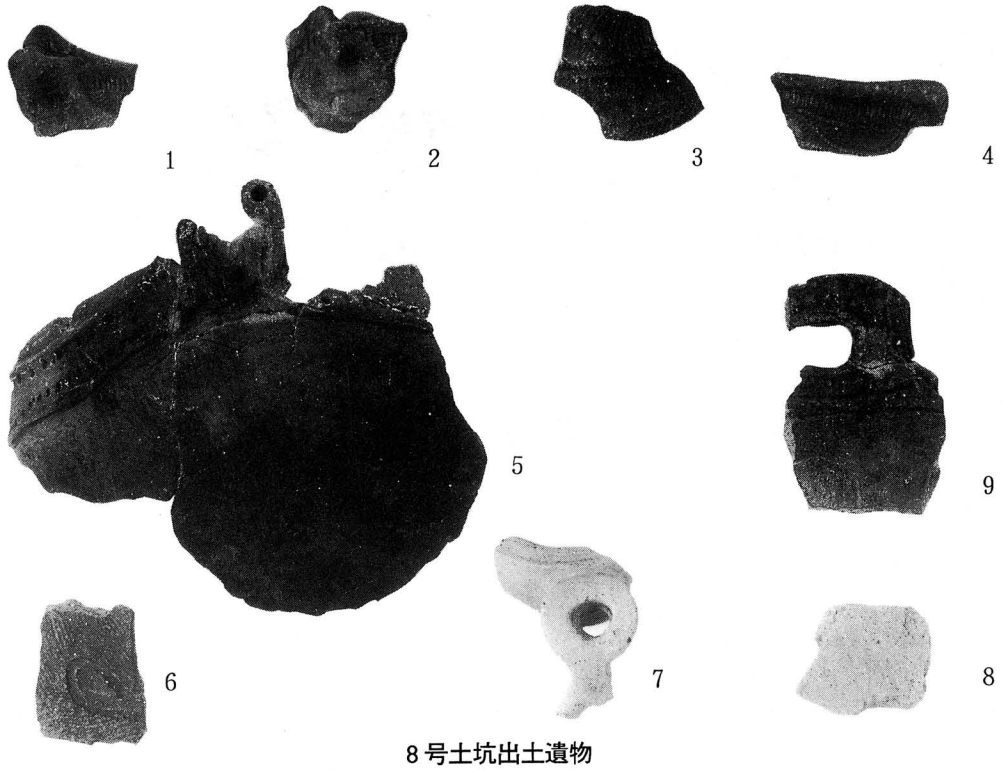
4 号土坑出土遺物



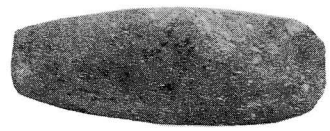
5 号土坑出土遺物



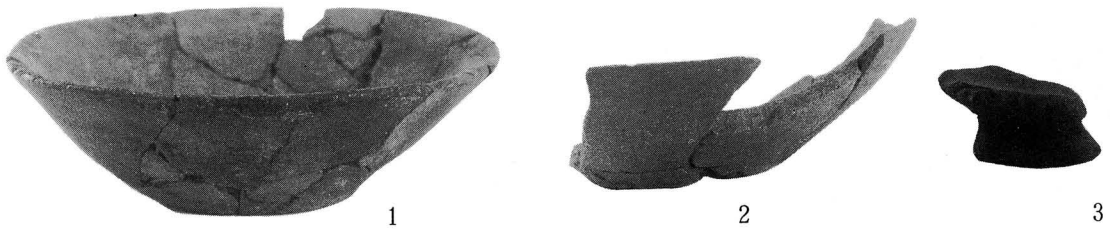
6 号土坑出土遺物



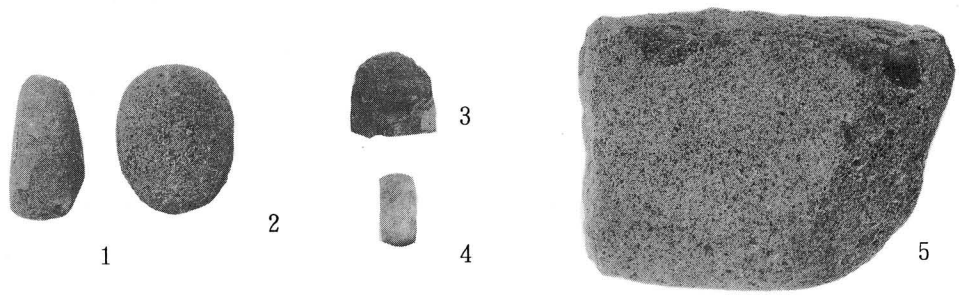
8 号土坑出土遺物



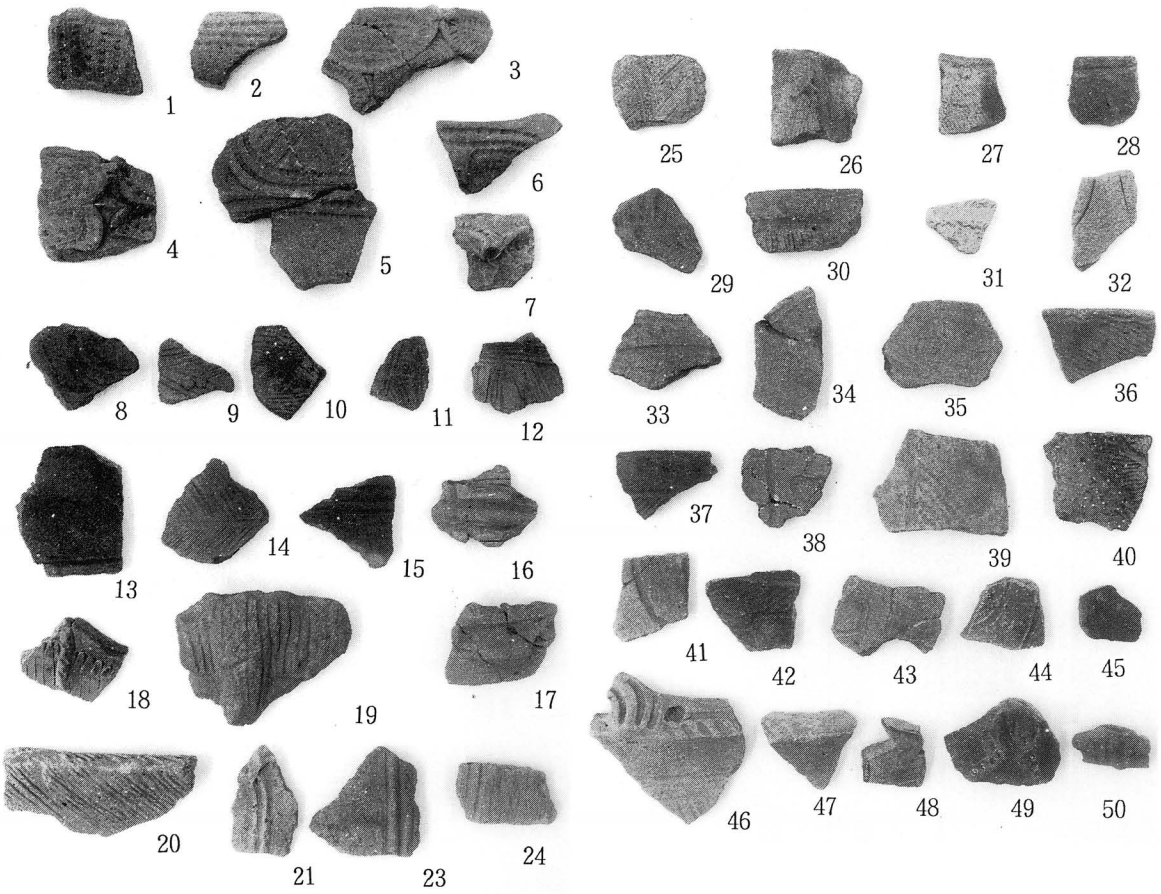
9 号土坑出土遺物



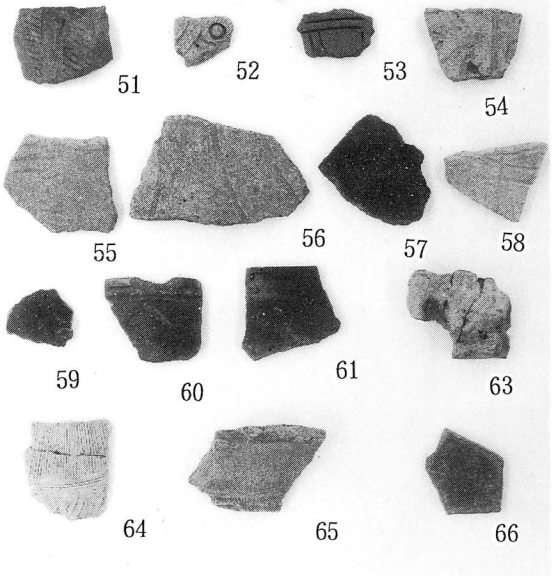
11号土坑出土遺物

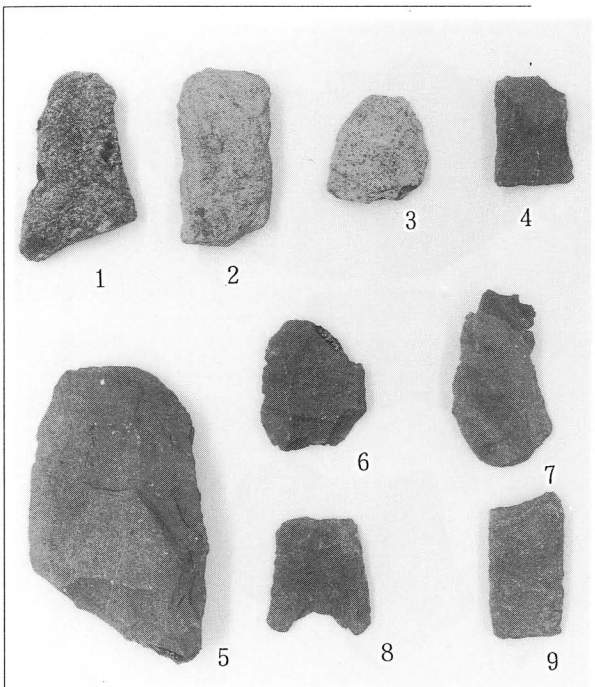


1 号地下式土壙出土遺物



遺構外出土遺物





遺構外出土石器

堂 地 遺 跡 Ⅱ

発行日　平成5年3月25日

発　行　韮崎市教育委員会
〒407 山梨県韮崎市水神一丁目3番1号
TEL 0551－22－1111(代)

印　刷　アートプリント社